ピアノ音源ユニット

KS-1

取扱説明書

KORG

Ⓙ ②

目次

取扱い説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[　]で括っています。

（☞p.■■）:参照ページを表します。

:スピーカ付きモデルの機能です。

:使用時の注意を表します。

MeMO :使用時のヒントなどの内容を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

おもな特長

● 多彩な音色 （☞p.11）

コンサートグランド・ピアノ音色をはじめとした、コルグ独自の高品位な8種類の音色が選択できます。
また、ステレオ・サンプリング音源を搭載していますので、コンサートグランド・ピアノの豊かな表現力だけでなく、心地よい広がりのある音色が楽しめます。

● 合計184曲の自動演奏を収録 （☞p.8、41）

各音色の特長を生かしたデモ演奏やクラッシック、バイエル、ブルクミュラーのピアノ・ソングの自動演奏を合計184曲も内蔵しています。

● ピアノ・ソングを使ったレッスン機能 （☞p.19）

ピアノ・ソングは右手、左手のパートの片方を消音して、消音したパートを自分で弾いて練習することができます。また、小節移動、リピート再生などの機能を使って、任意の位置から自由に練習できます。

● エフェクト機能 （☞p.11、12）

音色の明るさを3種類の中から選択できるブリリアンスと、豊かな響きを与えるリバーブの2つのエフェクトを搭載しています。

● ペダル効果 （☞p.12）

アップライト・ピアノの2つのペダルを使うことで、消音中でも本機の音色にダンパー、ソフトの効果をかけることができます。

● メトロノーム機能 （☞p.13）

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

● タッチ・コントロール機能 （☞p.15）

ピアノで一番大切な鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選ぶことができます。

● 音程の調節 （☞p.15、16）

他の楽器や曲にキー（調）が合わせられないとき、トランスポーズ機能により簡単にキーを変更（移調）して演奏することができます。また、ピッチ・コントロール機能により音程の微調整をすることもできます。

● 音律 （☞p.17）

平均律の他に、2種類の古典音律（ヴェルクマイスター、キルンベルガー）を選択することによって、古典音楽などの再現も可能になります。

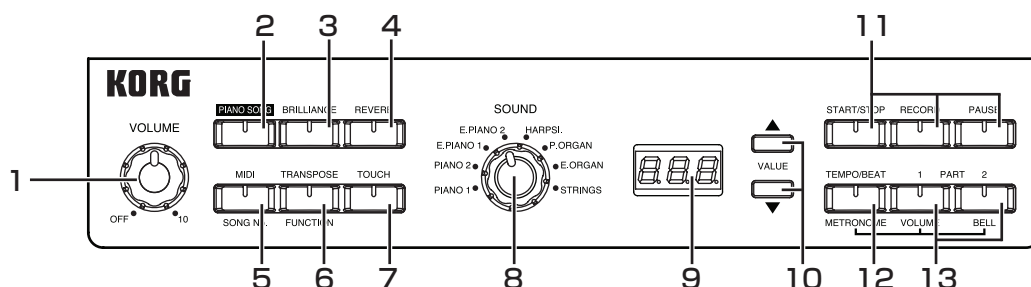
● レコーダー機能 （☞p.25）

自分の演奏を、そのまま録音、再生できるレコーダーを内蔵しています。

● 接続端子 （☞p.5、p.31、p.34）

オーディオ機器や他のMIDI機器、PCなどを接続できるLINE OUT、MIDI、USB端子を装備しています。

各部の名称とその機能

操作面

1.［VOLUME］ツマミ（電源スイッチ付き）
電源スイッチと共用の音量ツマミです。
ヘッドホン、ライン・アウト端子から出る音量をコントロールします。（☞p.7）

スピーカー付きモデルの場合、スピーカーから出力される音量もコントロールします。

ツマミが "OFF" の位置のときに、クリック位置まで右に回すとオンになります（マルチ・ディスプレイ点灯）。オフにするときはツマミを "OFF" の位置まででクリックするよう左に回し切ります（マルチ・ディスプレイ消灯）。

2.［PIANO SONG］スイッチ
ピアノ・ソング集の演奏や音色紹介のデモ演奏を聴くときに使用します。（☞p.8）

3.［BRILLIANCE］スイッチ
音色の明るさを設定するときに使用します。（☞p.11）

4.［REVERB］スイッチ
音に残響を加える設定をするときに使用します。（☞p.12）

5.［MIDI/SONG No.］スイッチ
MIDIに関する設定（☞p.31）や音色紹介のデモ演奏を聴く（☞p.8）ときに使用します。また、マルチ・ディスプレイの表示をソングNo.にするときに使用します。

6.［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチ
移調（☞p.15）や、設定の記憶（☞p.18）などのさまざまな設定をするときに使用します。

7.［TOUCH］スイッチ
鍵盤のタッチ（感度）を設定するときに使用します。（☞p.15）

8. 音色セレクター
音色を選びます。（☞p.11）
PIANO（ピアノ）1、2、E.PIANO（エレクトリック・ピアノ）1、2、HARPSI.（ハープシコード）、P.ORGAN（パイプ・オルガン）、E.ORGAN（エレクトリック・オルガン）、STRINGS（ストリングス）の８音色から選択します。

9. マルチ・ディスプレイ
メトロノーム、レコーダーのテンポやレコーダーのメモリー残量などを表示します。

表示例

小節数または、曲の先頭からの位置を示すカウンター値
メモリー残量

39小節
39の位置
残量39%

ピアノ・ソング番号
（ディスプレイが点滅）

No. 25

メトロノーム・テンポ、ソング・テンポ
（ドットが3つとも点灯）
1.0.8. 108

%表示のソング・テンポ
（左端のドットが点灯）

−20%

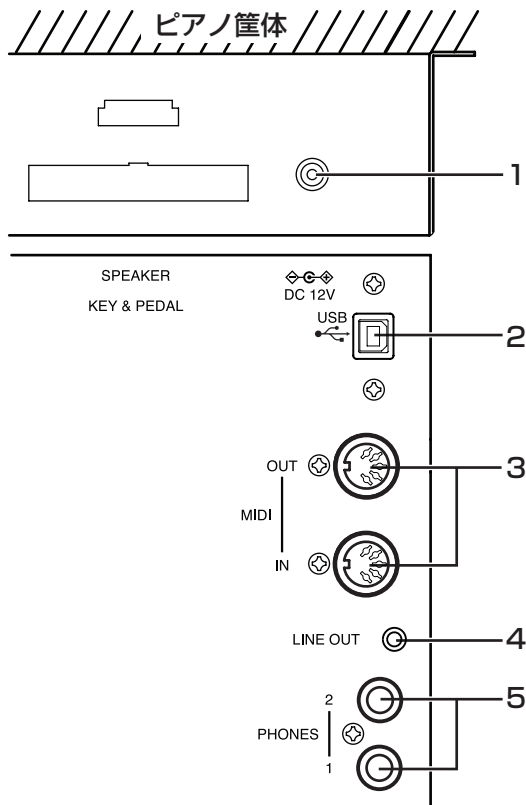
＋10%

10.［▲］、［▼］スイッチ
ピアノ・ソング、デモ曲の選択や、メトロノーム、レコーダーのテンポの値調整などをします。

11. レコーダー・セクション
演奏の録音/再生、一時停止などをします。（☞p.25）

12.［METRONOME］スイッチ
メトロノームのスタート/ストップ、テンポやビートの設定をするときに使用します。（☞p.13）

13.［PART1］、［PART2］スイッチ
パートの選択や、パート音量調整などに使用します。（☞p.20）

底面、リア面

1. DC12V端子

付属のACアダプターを接続します。(☞p.6)

2. USB端子

コンピューターなどとUSBケーブルで直接、接続しデータのやりとりをするための端子です。(☞p.34)

3. MIDI端子

シンセサイザー、シーケンサー、リズム・マシーンなどのMIDI機器と接続し、情報を交換するための端子です。(☞p.31)

IN

MIDI情報を受信します。本機をコントロールする外部MIDI機器のMIDI OUTと接続します。

OUT

MIDI情報を送信します。本機からコントロールする外部MIDI機器のMIDI INと接続します。

USB接続をしたときは、機能がかわります。(☞p.35)

4. LINE OUT(ライン・アウト)端子

アンプ付きスピーカーなどのインプット端子につないで音を出したり、録音機器などにつなぐときに使用する端子です。ステレオ・ミニプラグのケーブルを使用します。

各接続は必ず電源をオフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器などを破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

接続するケーブルは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

5. ヘッドホン端子

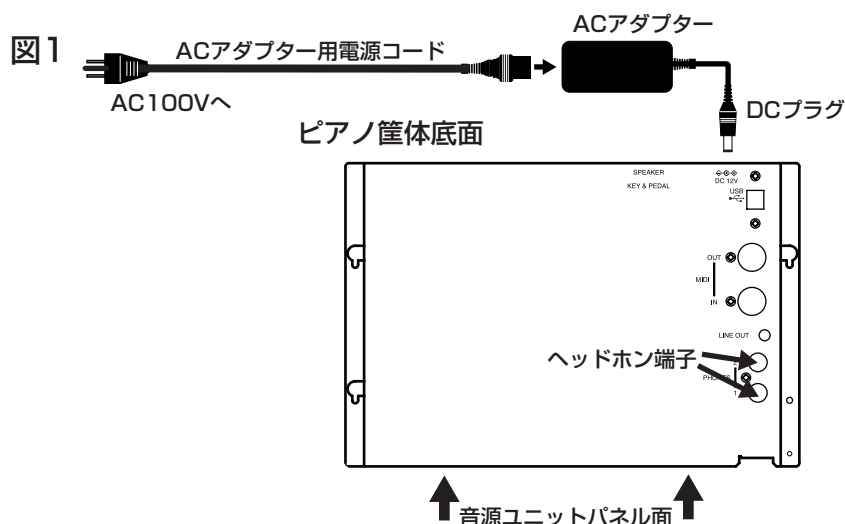
ステレオ・ヘッドホン(標準プラグ)を接続します。ステレオ・ヘッドホンは、2個を同時につなぐことができます。(☞p.7)

スピーカー付きモデルに、付属スピーカーを接続している状態の時、ヘッドホンを接続すると付属スピーカーから音を出なくすることができます。

演奏するための準備

演奏を始める前に

■ 電源の接続

付属のACアダプターに電源コードを取付け、DCプラグを本体のDC12V端子に接続します。

付属のACアダプターの電源コードのプラグには、アース端子がついています。感電と機器の損傷を防ぐためにアース接続を確実に行って、コンセントに接続してください。

電源は必ずAC100Vを使用してください。

接地コンセントに接続する場合は、直接プラグをコンセントに差し込んでください。

ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障などの原因となります。

アースターミナル付きコンセントに接続する場合は、2P-3P変換器をプラグに付け、アース線を接続した後にコンセントに差し込んでください。

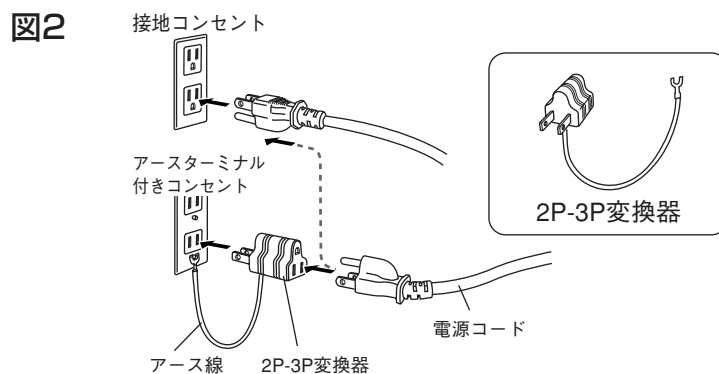
アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース端子を先に接続してからコンセントにプラグを差し込んでください。コンセントを外す場合は、必ずプラグを先に抜いてからアースを外してください。

■アコースティック・ピアノの音を消すときは

図３のようにピアノ底面の消音ユニットのレバーを手前に引き、下げてロックします。
レバーを元に戻すと、通常のアコースティック・ピアノの演奏ができます。

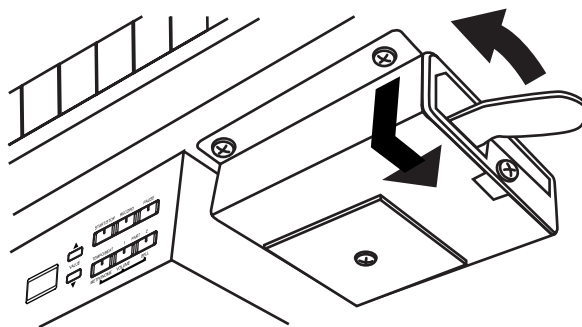
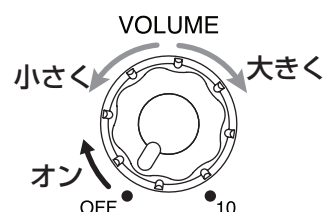
MeMO 本機は消音の有無に関わらず、すべての機能を使うことができます。消音しない場合の利用例は40ページ「消音しない利用例」をご覧ください。

消音にしていても和音を強く弾いた場合、アコースティック・ピアノの音が漏れることがあります。

演奏中に、このレバーを操作しないでください。

図3

■電源をオンにする

図4

［VOLUME］ツマミを右に回してオンにします。
マルチ・ディスプレイが点灯します。
オフにするときは、［VOLUME］ツマミを“OFF”の位置まで左に回してください。
マルチ・ディスプレイが消灯します。
オン、オフの切り替え時には「カチッ」と音がします。

 電源をオフにすると、「設定を記憶する」（☞p.18）で変更した設定以外は全て工場出荷時の設定に戻ります。ただし、レコーダー機能で録音した本体メモリー内の演奏データは消えません。

■ヘッドホンを接続する

音源ユニットの底面にあるヘッドホン端子（6ページの図1参照）に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ（標準プラグ）を差し込みます。

ヘッドホン端子は２つありますので、２人で演奏を楽しむことができます。

SP スピーカー付きモデルの場合、ヘッドホンを差し込むと本機の付属スピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときなどにヘッドホンをお使いください。

「ミニ→標準」の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

■音量を調節する

［VOLUME］ツマミを回して音量を調整します（図４参照）。

ヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。

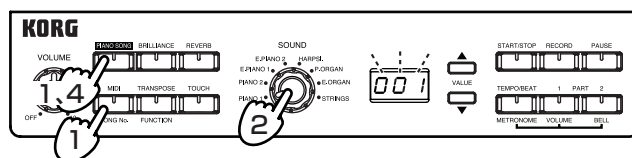
SP スピーカー付きモデルの場合、スピーカーから出力される音量もコントロールします。また、音量を最大にすると、音色によってはスピーカーから出る音が歪む場合があります。

自動演奏を聴いてみましょう

本機には、高品位な8種類の音色を使った音色デモが8曲と、ピアノ音色を使い、なじみのあるピアノ曲などをあつかったピアノ・ソングが176曲、合計184曲の自動演奏が入っています。

音色デモを聴く

音色デモ一覧

No.	音色	曲名	作者
1	PIANO1	革命のエチュード	F.ショパン
2	PIANO2	Reflection	M. テンピア
3	E.PIANO1	Three Hands	H.ミナミ
4	E.PIANO2	All The Ones You Don't Know	M. テンピア
5	HARPSI.	イタリア協奏曲	J.S.バッハ
6	P.ORGAN	フーガト短調	J.S.バッハ
7	E.ORGAN	Cool"B"	M. テンピア
8	STRINGS	G線上のアリア	J.S.バッハ

1. ［PIANO SONG］スイッチと、［MIDI/SONG No.］スイッチを同時に押します。
［PIANO SONG］スイッチと、［MIDI/SONG No.］スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイが音色セレクターで選ばれている曲番号で点滅します。

2. 音色デモ一覧から聴きたい曲を音色セレクターで選ぶと、選んだデモ曲の演奏を開始します。
曲を選ばないまま約5秒経過すると、音色デモのNo.1から順番に演奏を開始します。音色デモのNo.8の演奏が終わると、再び音色デモのNo.1に戻り演奏を続けます。

3. 選んだ音色デモの演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏されます。
このとき、マルチ・ディスプレイは曲の先頭からの位置を示すカウンター表示になります。

4. 演奏をやめるときは［PIANO SONG］スイッチを押します。
［PIANO SONG］スイッチと、［MIDI/SONG No.］スイッチが消灯して演奏が止まり、通常の演奏できる状態に戻ります。

演奏中に［MIDI/SONG No.］スイッチを押すと、マルチ・ディスプレイは現在の曲番号の点滅表示にかわります。カウンター表示に戻すときは、［PAUSE］スイッチを押します。

● 他の音色デモに切りかえるときは、音色セレクターでデモ曲を切り替えてください。
たとえば、音色デモのNo.1を演奏中にNo.8に切りかえるときは、音色セレクターでSTRINGSを選んでください。音色デモの演奏は、No.8に切り替わり順番に演奏を続けます。
また、［MIDI/SONG No］スイッチを押して、マルチ・ディスプレイを曲番号の点滅表示にして、［▲］、［▼］スイッチで曲を選択することもできます。選択後［START/STOP］を押してください。なお、このとき音色セレクターの選択位置は無視されます。

音色デモの演奏中に鍵盤を弾いて、その音を出すことはできますが、音色を変えることはできません。

音色デモの演奏中はリバーブの設定を変えることはできません。

音色デモはテンポを変えることができません。

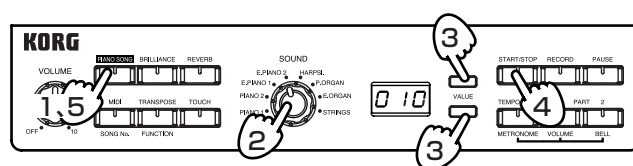
ピアノ・ソングを聴く

ピアノ・ソングは名曲集1、2、バイエル、ブルクミュラーの4つのグループに分けて収録されています。それぞれのグループは、割り当てられている音色を音色セレクターで選びます。

ピアノ・ソング・グループ一覧

グループ	音色	曲数	備考
名曲集1	PIANO1	32	
名曲集2	PIANO2	13	
バイエル	E.PIANO1	106	メトロノーム使用可
ブルクミュラー	E.PIANO2	25	メトロノーム使用可

それぞれのグループ内の曲名は、41ページ「ピアノ・ソング・リスト」をご覧ください。

音色セレクターで、HARPSHI、P.ORGAN、E.ORGAN、STRINGSを選んだ場合は、ブルクミュラーのグループの選択になります。

1. [PIANO SONG]スイッチを押します。
   [PIANO SONG]スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイに曲番号が“001”と点滅表示されます。

   そのまま約5秒経過すると、名曲集1のグループの1曲目から順番に演奏を開始します。

   バイエルのソング・グループは演奏されません。

2. **聴きたいグループが割り当てられている音色を音色セレクターで選びます。**

3. **[▲]、[▼]スイッチを押し、マルチ・ディスプレイで聴きたい曲の番号を選びます。**
   曲名、および番号は41ページ「ピアノ・ソング・リスト」をご覧ください。

   MeMO [▲]、[▼]スイッチを同時に押すと、選んだグループの先頭の曲(No.1)を選ぶことができます。

4. **[START/STOP]スイッチを押すと演奏が始まります。**
   マルチ・ディスプレイの表示は小節数(または、曲の先頭からの位置を示すカウンター表示)にかわり、選んだ曲の演奏が始まります。

   選んだ曲の演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏され、グループの最後の曲が終わると先頭の曲に戻り、繰り返し演奏されます。

5. **ピアノ・ソングの演奏をやめるときは[PIANO SONG]スイッチを押します。**
   [PIANO SONG]スイッチが消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

演奏中に[MIDI/SONG No.]スイッチを押すと、マルチ・ディスプレイは現在の曲番号の点滅表示にかわります。小節数の表示(または、カウンター表示)に戻すときは、[PAUSE]スイッチを押し一時停止させたあと、もう一度[PAUSE]スイッチを押します。

● 1曲のみを繰り返し演奏するときは、その曲の演奏中に［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押してリピート再生にします（［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチ点滅）。
リピート再生を止めるときは、［PAUSE］または、［START/STOP］スイッチを押します（［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチ消灯）。

MeMO リピート再生を［PAUSE］スイッチで止めたときは、［PAUSE］スイッチをもう一度押すとそこから再生を始めます。［START/STOP］スイッチで止めたときは、演奏の先頭に戻ります。

● 演奏中に他のグループの曲に切りかえるときは、、聴きたい曲が含まれるグループが割り当てられている音色を音色セレクターで選びます。
マルチ･ディスプレイの表示が曲番号の点滅にかわったことを確認し、操作3.以降を行います。

MeMO ［START/STOP］スイッチを押して演奏を止めてから、操作2.以降を行い曲を選ぶこともできます。

曲番号の点滅になっていない時は［MIDI/SONG No.］を押してください。

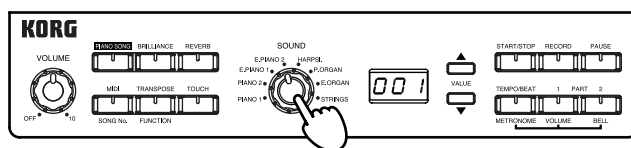
● グループ単位でのピアノ･ソングを演奏するときは、操作2.のあと［START/STOP］スイッチを押すと演奏が始まります。
マルチ･ディスプレイの表示は小節数（または、カウンター表示）にかわり、グループの先頭の曲から最後の曲までを順番に繰り返し演奏します。

MeMO ピアノ･ソングの演奏中に鍵盤を弾くと、ピアノ音色で演奏できます。

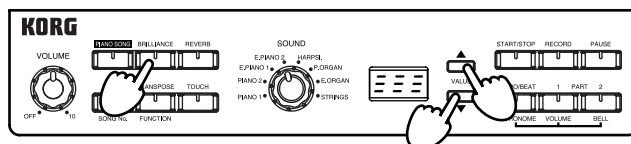
［PIANO SONG］スイッチが点灯しているときは、リバーブの設定を変えることはできません。

ピアノ･ソングは、テンポを変えたり、パート（右手、左手）ごとの演奏を選ぶことなど、練習に役立つ機能を使うことができます。
操作方法は19ページ「ピアノ･ソングを活用する」をご覧ください。

弾いてみましょう

音色を選ぶ

○ 音色セレクターを回して、音色を選びます。

音色	特長
PIANO1	臨場感あふれる最高峰のグランドピアノの音
PIANO2	ジャンルを問わずオールマイティに弾けるグランドピアノの音
E.PIANO1	軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音
E.PIANO2	アタック感があって切れの良いエレクトリック・ピアノの音
HARPSI.	クラシックな趣のあるリアルなハープシコードの音
P.ORGAN	荘厳なパイプ・オルガンの音
E.ORGAN	ファンキーでポップなオルガンの音
STRINGS	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

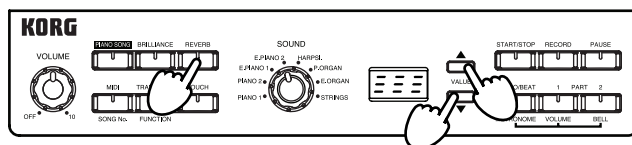
音色の明るさをかえる（ブリリアンス）

○ ［BRILLIANCE］スイッチを押しながら、［▲］、［▼］スイッチを押して、音の明るさを選びます。
このとき、音の明るさの設定がマルチ・ディスプレイに表示されます。

表示	設定
_ _ _	明るさを抑えた落ち着いた音色
= = =	標準の明るさの音色
≡ ≡ ≡	明るめの音色

また、標準の明るさの音色以外を選んだときは、［BRILLIANCE］スイッチが点灯します。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。操作方法は、18ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

音色に残響を加える（リバーブ）

音に残響と深みを加え、コンサート・ホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをリバーブ効果といいます。

○ ［REVERB］スイッチを押すたびにオン（点灯）、オフ（消灯）を繰り返します。

設定をかえるときは［REVERB］スイッチを押しながら、［▲］、［▼］スイッチを押して、リバーブの深さを選びます。このとき、設定がマルチ・ディスプレイに表示されます。

表示	設定
	浅いリバーブ効果
	標準のリバーブ効果
	深いリバーブ効果

リバーブのオン、オフや深さは音色ごとに設定することができます。工場出荷時には、音色ごとに推奨する設定になっています。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。操作方法は、18ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

MeMO ピアノ1、2、E.ピアノ1、2の音色では、アコースティック·ピアノの弦の響きをシミュレートしているためリバーブをオフにしても、わずかにリバーブ効果が残ります。

ペダルを使う

本機の音色にダンパー、ソフトの2種類の機能を使うことができます。アコースティック・ピアノ本体のペダルを使って、演奏をより効果的に表現することができます。

ダンパー・ペダル

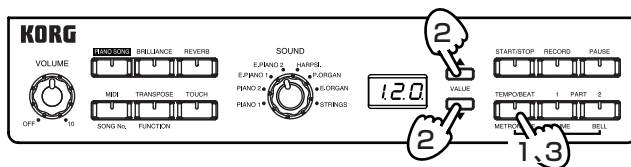
ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ·ペダル効果）。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます（ハーフ·ペダル効果）。

メトロノームに合わせて演奏する

テンポに合わせて演奏するときは、メトロノームを使うと便利です。

■ メトロノームを鳴らすときは

1. ［METRONOME］スイッチを押します。
   ［METRONOME］スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイのドットが3つとも点灯してテンポ表示になります。
   テンポに合わせて、［START/STOP］スイッチが点滅します。
2. ［▲］、［▼］スイッチで、テンポを調整してください。
   テンポがマルチ・ディスプレイに表示（電源オン時♩ ＝120）されます。
   スイッチを押している間は、連続して値が変わります。［▲］、［▼］スイッチを同時に押すと電源オン時のテンポに戻ります。
   設定できる範囲は、♩ ＝40〜240です。
3. メトロノームをストップするときは、もう一度［METRONOME］スイッチを押します。
   ［METRONOME］スイッチが消灯します。

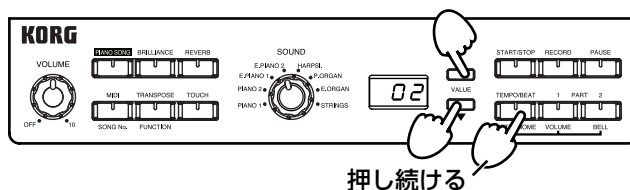
MeMO メトロノームをオン、またはオフの状態をかえないままテンポを設定するときは、［METRONOME］スイッチを長押し（1秒以上）してマルチ・ディスプレイの表示をテンポにし、［▲］、［▼］スイッチで調整します。

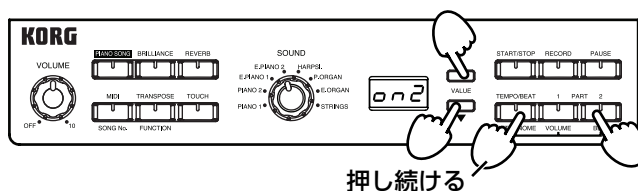
MeMO ［METRONOME］スイッチを押しながら、鍵盤のB3〜G♯4を押すことで、直接数値入力することもできます（☞p.42）。

● **メトロノームの音量を調整するときは、［METRONOME］スイッチを押しながら、パートの［PART1］スイッチを押します。そのまま［METRONOME］スイッチを押しながら［▲］、［▼］スイッチを押して、音量を調整します。**

マルチ・ディスプレイにメトロノームの音量1〜13（工場出荷時は10）が表示されます。
工場出荷時の音量に戻すときは、［METRONOME］スイッチを押しながら［PART1］スイッチを押し、そのまま［METRONOME］スイッチを押しながら［▲］と［▼］スイッチを同時に押します。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。操作方法は、18ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

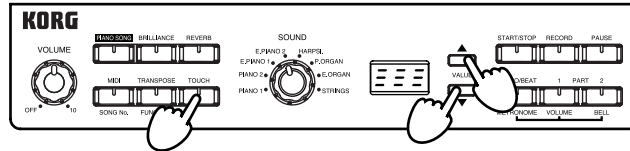
● メトロノームの拍子を設定するときは、[METRONOME]スイッチを押しながら[▲]、[▼]スイッチを押して、拍子を設定します。
拍子がマルチ・ディスプレイに表示されます。

表示	拍子
02	2/4
03	3/4
04	4/4(電源オン時)
06	6/4

● メトロノームのアクセントの音をかえるときは、[METRONOME]スイッチを押しながら、パートの[PART2]スイッチを押します。そのまま[METRONOME]スイッチを押しながら[▲]、[▼]スイッチを押して、アクセントの音を設定します。
設定がマルチ・ディスプレイに表示されます。

表示	アクセント
oFF	無し
on1	標準(工場出荷時)
on2	ベル音

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。操作方法は、18ページ「設定を記憶する」を参照してください。

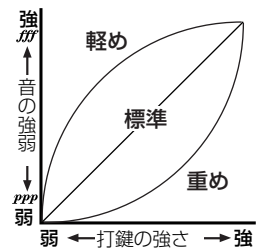
鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチ・コントロール機能といいます。

電源をオンにしたときは、標準（普通）のタッチになります。

○ **［TOUCH］スイッチを押しながら［▲］、［▼］スイッチを押して、タッチ感を選びます。**

このとき、マルチ・ディスプレイに設定が表示されます。

表示	タッチ・コントロールの設定
_ _ _	軽め（弱く弾いても強音が出せるタッチ）
= = =	標準（普通のピアノ・タッチ）
≡ ≡ ≡	重め（強く弾かないと強音が出せないタッチ）

軽め、または重めを選んだときは、［TOUCH］スイッチが点灯します。

キーを変更する（移調）

キーを変える（移調する）ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。

11半音の範囲で設定することができます。

1. **［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながら、F♯6～F7から1つの鍵盤を押します。**

   C7以外の鍵を押えると［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチが点灯し、トランスポーズされたことを示します。

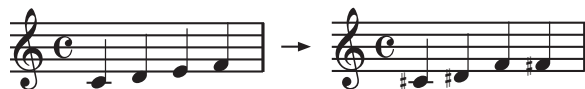
   押さえた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

2. **もとの設定に戻すときは、［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながら、C7鍵を押します。**

   電源をオフにしても、もとの設定に戻ります。

■ 曲の調子を半音上げて演奏するときは

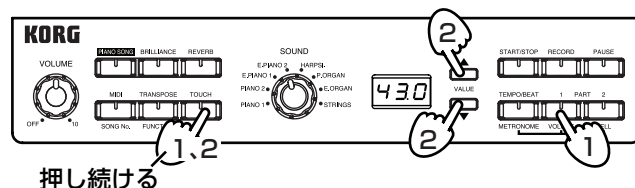
Cの鍵を押さえたときにC♯の音が鳴るようにします。

○［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながらC♯7の鍵盤を押します。
半音上げたときに左の楽譜を弾くと、下の楽譜のように鳴ります。

■ キーがB♭の曲を、Gの指使いに直して演奏するときは

B♭の音は、Gの音から見て短3度の（3半音高い）音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD♯7の音が出るようにします。

○［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながらD♯7の鍵盤を押します。

音の高さを微調整する

ピッチ（音の高さ）の微調整を行ないます。
他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。
±12.5Hz（427.5Hz～452.5Hz）までずらすことができます。

1.［TOUCH］スイッチを押しながら、パートの［PART1］スイッチを押します。
マルチ・ディスプレイに現在のピッチの下3桁（工場出荷時は40.0）が表示されます。

2. そのまま［TOUCH］スイッチを押しながら［▲］、［▼］スイッチを押して、ピッチを調整します。
［▲］、［▼］スイッチを同時に押すと工場出荷時のピッチ（A4=440Hz）に戻ります。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。操作方法は、18ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

音律を選ぶ

音律が選択できます。

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、ヴェルクマイスターとキルンベルガーという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の３種類の音律が選択できます。

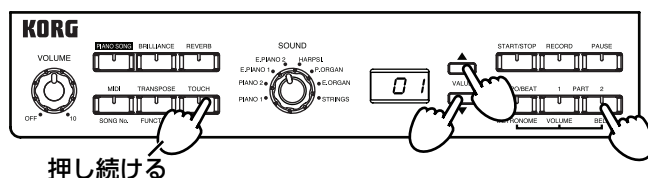
・ヴェルクマイスター

ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス･ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターⅢスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由な移調を目的として考案されたものです。

・キルンベルガー

１８世紀初めに、ヨハン･フィリップ･キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢスケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。

・平均律

現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

1.［TOUCH］スイッチを押しながら、パートの［PART2］スイッチを押します。

マルチ･ディスプレイに現在の音律（電源オン時は00）が表示されます。

2. そのまま［TOUCH］スイッチを押しながら［▲］、［▼］スイッチを押して、音律を選びます。

表示	設定
00	平均律
01	ヴェルクマイスター
02	キルンベルガー

電源をオフにすると、平均律に戻ります。

MeMO ピアノ1、ピアノ2の音色では、ストレッチ･チューニングを用いています。ストレッチ･チューニングは、より自然な響きを得るために平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

設定を記憶する

今までいろいろな設定を紹介してきましたが、以下の設定は電源をオフにしても本機内に記憶することができます。
一度の操作で、これらの現在の設定が記憶されます。

・ブリリアンス効果
　音色ごと

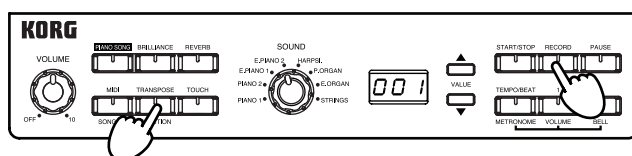
・リバーブ効果
　音色ごと

・ピッチの微調整

・メトロノームの音量

・メトロノームの強拍の音色

・演奏データ再生時の各パートの音量バランス（☞p.29）
　録音した演奏データを消去しても、演奏データ再生時の各パートの音量バランスの設定は消去されません。演奏データを録音すると、各パートの音量バランスは、すでに記憶されている設定に従いますので、必要に応じてこれらの音量バランスを設定し直したり、設定を記憶し直してください。

○ [TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら [RECORD] スイッチを押します。
　書き込み中は、マルチ・ディスプレイが消灯します。

工場出荷時の設定に戻す

音色を選んでいろいろな設定を記憶したあとで、工場出荷時（購入時）の設定に戻したいときは以下の操作を行ってください。
この操作を行うと、録音したデータは消えませんが、それ以外の設定が工場出荷時の状態に戻ります。録音したデータを消去するときは、30ページ「演奏データを消去する」をご覧ください。

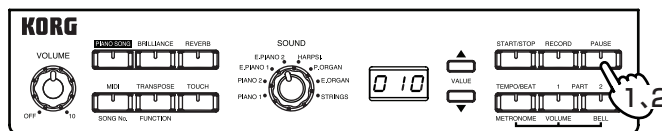
 工場出荷時の設定に戻してもよいかどうか確認してから操作を行ってください。

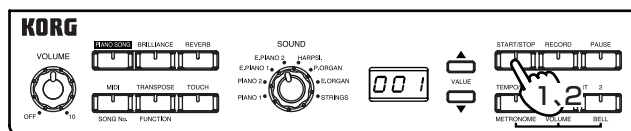
1. 電源をオフにします。

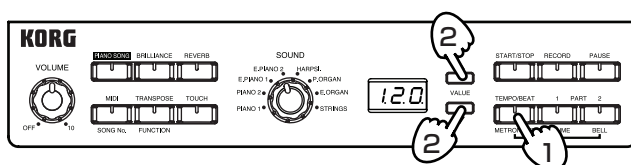
2. [START/STOP] スイッチを押しながら電源をオンにします。
　パネルのスイッチが順次、素早く点灯して工場出荷時の設定に戻ります。

ピアノ・ソングを活用する

ピアノ・ソングのコントロール

■ピアノ・ソング演奏を一時停止するときは

1. **演奏中に［PAUSE］スイッチを押すと演奏が一時停止します。**
   ［PAUSE］スイッチが点灯し、［START/STOP］スイッチが消灯します。
2. **もう一度［PAUSE］スイッチを押すと一時停止したところから演奏を再開します。**
   ［PAUSE］スイッチが消灯し、［START/STOP］スイッチがテンポに合わせた点滅にかわります。

■演奏中のピアノ・ソングを先頭から聴き直すときは

1. **演奏中に［START/STOP］スイッチを押すと演奏が停止します。**
   このとき、［PIANO SONG］スイッチはまだ点灯中です。
2. **もう一度［START/STOP］スイッチを押すとその曲の最初から演奏します。**

■ ピアノ・ソングのテンポを変えるときは

1. **［METRONOME］スイッチを押します。**
   バイエル、ブルクミュラーのときは、［METRONOME］スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイにオリジナルのテンポが表示されます。
   名曲集1、2のときは、［METRONOME］スイッチが消灯のまま、マルチ・ディスプレイにオリジナルのテンポに対する%が表示されます。

   MeMO テンポ表示のときはマルチ・ディスプレイのドットが３つ、%表示のときは１つ点灯します。

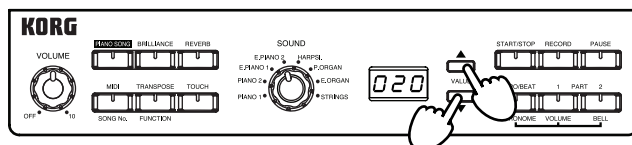
2. **［▲］、［▼］スイッチを押して、テンポを調整してください。**
   テンポ、または%がマルチ・ディスプレイに表示されます。
   スイッチを押している間は、連続して値が変わります。
   設定できる範囲は、オリジナルの−50%〜＋50%です。

   デモ曲は、それぞれでテンポが設定されていますので、現在選んでいる曲でテンポを調整しても曲が変わると、その曲のオリジナルのテンポになります。

MeMO テンポをかえた後で、オリジナルのテンポに戻すときは、テンポ、または%がマルチ・ディスプレイに表示されているときに[▲]、[▼]スイッチを同時に押してください。また、電源をオフにしたり、他のピアノ・ソングを選んだときもオリジナルのテンポに戻ります。

MeMO バイエル、ブルクミュラーのときに、メトロノームの音を出さずにテンポを変えるときは、[METRONOME]スイッチを長押し（1秒以上）してマルチ・ディスプレイの表示をテンポにし[▲]、[▼]スイッチを押してテンポを調整してください。

MeMO バイエル、ブルクミュラーのときは、[METRONOME]スイッチを押しながら、鍵盤のB3～G♯4を押すことで、直接数値入力することもできます（☞p.42）。

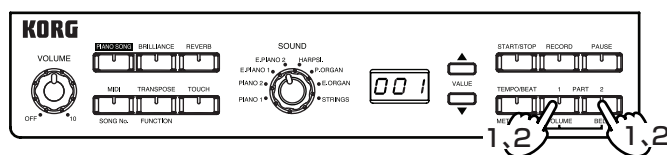
■ 小節移動

○ **ピアノ・ソングの演奏中または停止、一時停止のときなどに、マルチ・ディスプレイに小節位置が表示されている場合は、[▲]、[▼]スイッチを押して小節間の移動ができます。**
停止しているときに小節を移動すると一時停止状態（[PAUSE]スイッチ点灯）になり、[PAUSE]スイッチを押すとその位置から再生が始まります。

[▲]、[▼]スイッチを同時に押すと先頭の小節（001）に移動します。この場合は[START/STOP]スイッチを押して演奏を開始します。

マルチ・ディスプレイに曲の先頭からの位置を示すカウンター値が表示される名曲集1、2のピアノ・ソングのときは、カウンター値の移動になります。

ピアノ・ソングに合わせて弾いてみる

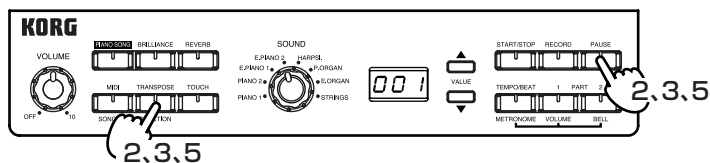
■ 右手と左手を別々に演奏するときは

ピアノ・ソングは、右手または左手のパートのどちらかを自動演奏させ、もう一方のパートを消音して自分で演奏することができます。

1. **左手のパートを消音するときは、[PART1]スイッチを押し、右手のパートを消音するときは、[PART2]スイッチを押します。**
   消音したパートのスイッチが点滅します。
   曲に合わせて演奏してください。

2. **左手、または右手のパートの消音を解除するときは、点滅しているパートのスイッチを押します。**
   スイッチが点灯にかわります。

消音したパートの演奏を確認しながら弾いてみるときは、消音パートの音量を調整します。
[PIANO SONG]スイッチを押しながらパートの[PART1]スイッチを押すと、マルチ・ディスプレイに音量（電源オン時は00）が表示されます。
そのまま[PIANO SONG]スイッチを押しながら[▲]、[▼]スイッチを押してパートの音量を調整します。このとき、マルチ・ディスプレイに00（消音）から12まで音量が表示されます。

■任意の位置を指定して繰り返し演奏するときは（ABリピート機能）

ピアノ·ソングの演奏の開始位置と終了位置を指定しその区間を繰り返し演奏することができます。

1. 「ピアノ·ソングを聴く」の手順で演奏を始めます（☞p.9）。
2. **演奏中に、繰り返し演奏を開始する位置になったときに、[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、レコーダーの[PAUSE]スイッチを押して、開始位置を指定します。**
   [PAUSE]スイッチが点滅になります。
3. **そのまま演奏を続け、繰り返し演奏を終了する位置になったときに、もう一度[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[PAUSE]スイッチを押して、終了位置を指定します。**
   [PAUSE]スイッチが点灯にかわります。
4. **自動的に2.で設定した開始位置に戻り、指定した開始位置と終了位置の区間を、繰り返し演奏します。**
5. **指定区間の演奏を解除するときは、[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[PAUSE]スイッチを押します。**
   [PAUSE]スイッチが消灯します。

MeMO [PAUSE]スイッチを押して一時停止にしたり、[▲]、[▼]スイッチで小節移動をして解除することもできます。また[START/STOP]スイッチを押して解除することもできますが、その場合はソングの先頭に戻ります。

ピアノ·ソングを使った練習

■ 練習曲について

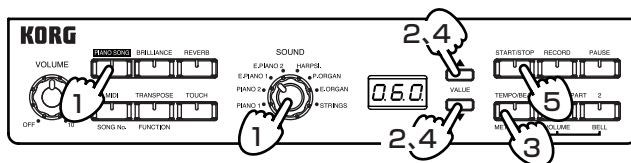
バイエルとブルクミュラーは練習曲として便利なように、自動演奏時は市販の一般的な楽譜と本機のマルチ·ディスプレイの小節表示が合うようになっています。
これにより、楽譜を見たり、実際の演奏を聞いたりしながら練習することができます。

また、練習曲は、テンポを変えることができます。最初は弾けるテンポで練習を始め、だんだん指定のテンポまで早くするという練習を重ねることで、しっかりとした技術を身につけることができます。

バイエル、ブルクミュラーの練習曲は曲により2または、1小節分のカウント後、演奏が始まります。

名曲集1、名曲集2は演奏のニュアンスを勉強できるように、コルグ専属のピアニストがリアルタイム録音しています。ある程度弾けるようになってから、演奏の表現の幅を広げるための一例として合わせて弾いてみると良いでしょう。

マルチ·ディスプレイの表示は、バイエル、ブルクミュラーのときは小節位置を、名曲集1、2のときは曲の先頭からの位置を示すカウンター値になります。

■ バイエル1番を練習してみましょう

1. ［PIANO SONG］スイッチを押した後、音色セレクターでE.PIANO1を選びます。
   9ページ「ピアノ·ソングを聴く」をご覧ください。
2. マルチ·ディスプレイの数字が "001" で点滅するのを確認します。他の数字の時は［▲］、［▼］スイッチで "001" を選んでください。
   市販の楽譜とピアノ·ソングのバイエルの曲番号は同一です。
3. ［METRONOME］スイッチを押してマルチ·ディスプレイにテンポを表示させます。
   19ページ「ピアノ·ソングのテンポを変えるときは」をご覧ください。

   この時、メトロノームが鳴ります。不要な場合は、もう一度［METRONOME］スイッチ押して音を消してください。ただし、マルチ·ディスプレイはテンポ表示のままです。
4. ［▲］、［▼］スイッチで自分が演奏できそうなテンポを設定します。
   ここでは "60" にしてみましょう。拍子は自動的に選んだ曲の拍子になります。
5. ［START/STOP］スイッチを押します。
   テンポ "60" で2小節分（8カウント）のカウント後、選んだ曲の演奏が始まります。

バイエル１番には右手の演奏がパート2に、先生の伴奏がパート１に入っています。伴奏が気になって練習しにくい場合は、パート1の演奏を消音（または、音量を調整）してください（☞p.20「右手と左手を別々に演奏するときは」）。

繰り返し練習するときは

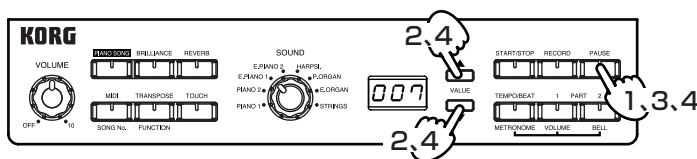
・ 小節単位で移動する
  マルチ·ディスプレイに小節が表示されているときは、［▲］スイッチを押すたびに1つ後に進み小節の先頭に、［▼］スイッチを押すたびに1つ前に戻り小節の先頭に移動します。

  ［▲］、［▼］スイッチを押し続けると小節を連続的に移動します。

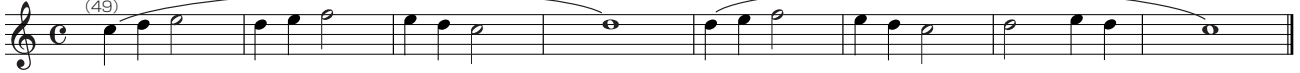
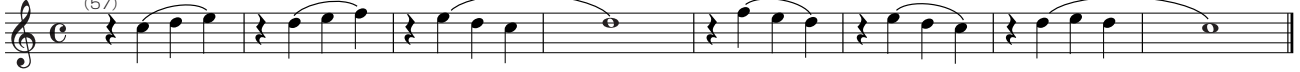
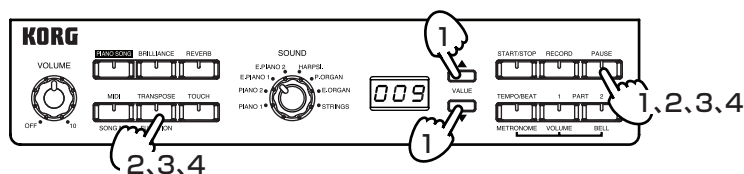
  MeMO 再生中も［▲］、［▼］スイッチを押すことで、小節の移動ができます。
・ 任意の位置を繰り返し演奏する
  21ページ「任意の位置を指定して繰り返し演奏するときは」をご覧ください。

バリエーション１の練習をやってみましょう

バイエル1番はバリエーション全てを連続して演奏できるようになっています。各バリエーションの最初が何小節目になるかは最初から数えるか、計算して小節数を書いておくと便利です。

バイエルの１番は次ページの楽譜のようになります。

1. マルチ·ディスプレイが小節になっていない場合、［PAUSE］スイッチを押して小節表示にします。
2. バリエーション1の最初の小節の2小節前になるよう［▲］、［▼］スイッチで "007" にします。再生中の場合は一時停止にします。

3. [PAUSE] スイッチを押します。2小節の演奏後に右手で演奏に合わせて鍵盤を弾きます。

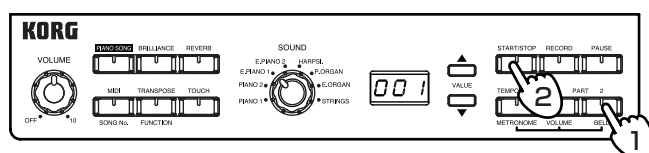
4. バリエーション1が終了したら、[PAUSE] スイッチを押して止めます。小節を [▲]、[▼] スイッチで戻してまた練習します。

自動的にバリエーション１の区間をリピート練習しましょう。

1. 小節をバリエーション１の開始小節の少し前、例えば“008”に［▲］、［▼］スイッチで移動します。［PAUSE］スイッチを押して演奏を始めます。
2. 音を聞いて、マルチ・ディスプレイの小節表示が“００９”になったところで［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながら、［PAUSE］スイッチを押します。（リピート開始点の設定）
3. 音を聞いて、マルチ・ディスプレイの小節表示が“０１７”になったところで再び［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながら、［PAUSE］スイッチを押します。（リピート終点の設定）

   これでリピート開始点と終点を自動的に繰り返し演奏するようになります。演奏に合わせて繰り返し練習します。
4. リピートを解除したいときは、［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながら、［PAUSE］スイッチを押してます。

   MeMO ［PAUSE］スイッチを押して一時停止にしたり、［▲］、［▼］スイッチで小節移動をして解除することもできます。また［START/STOP］スイッチを押して解除することもできますが、その場合はソングの先頭に戻ります。

練習中にお手本の音が気になる場合、消音（または、音量を調整）することができます。20ページ「右手と左手を別々に演奏するときは」をご覧ください。

伴奏に合わせて仕上げ

充分に練習できたら、伴奏に合わせて演奏してみましょう。

1. パートの［PART2］スイッチを押して点滅にし、お手本の演奏を消音します。
   20ページ「右手と左手を別々に演奏するときは」をご覧ください
2. 最初の小節“001”から［START/STOP］スイッチを押して演奏開始します。

バイエル3番以降の曲では右手がパート2、左手がパート１に入っているので、それぞれ片手ずつ練習することができます。

単調になりがちな片手練習も反対の手のパートの演奏が入っているので、飽きずに進めることができます。
また、うまく弾けないところはABリピート機能を使って何回も練習することで、だんだん弾けるようになります。

■ 名曲集１、名曲集２の練習

ある程度弾けるようになってから、片手ずつ合わせて演奏してみましょう。
うまく弾けないないところは、テンポを落として、ABリピート機能を使って練習し、徐々に速度を上げて弾いてみましょう。

名曲集はメトロノームを使った練習をすることはできません。

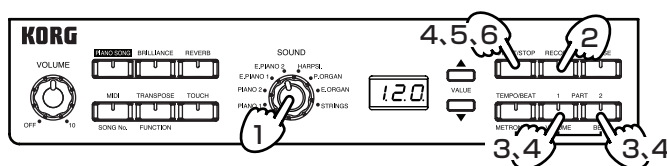
演奏を録音/再生する

本機のレコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。
録音パートは2つあります。別の曲を録音することはもちろん、同じ曲を右手、左手で分けて録音し、2つのパートを同時に再生することもできます。

⚠ 録音されているパートに録音すると、データが上書きされて、以前の演奏データは消去されますので、録音してもよいかどうかを確認してから操作を行ってください。

MeMO 録音した演奏データは電源をオフにしたり、工場出荷時の設定に戻しても記憶されています。

演奏を録音する

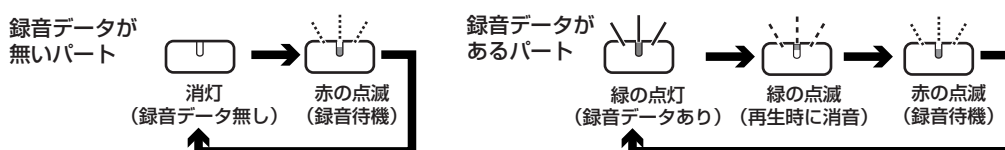
■ 演奏を録音するときは

1. **音色セレクターを回して、録音時の音色を選びます。**

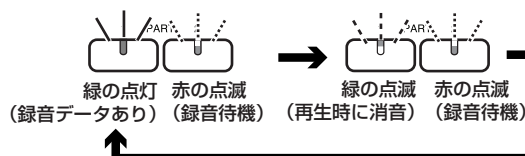
   MeMO 再生時に音を変えたり、再生時の音色を指定することができます（☞p.27）。

2. **［RECORD］スイッチを押します。**
   スイッチが点灯します。

3. **［PART1］、および［PART2］スイッチの点灯で、パートの録音状態を確認してください。**
   すでに録音されているときは、スイッチが緑の点灯になります。

4. **録音するパートを1つ選び、そのスイッチを押し、赤の点滅にします。**
   赤の点滅は録音待機の状態です。

   パートのスイッチを何度か押すと、スイッチの点灯が以下のように切り替わります。

⚠ 2つのパートを同時に録音待機の状態に設定できません。

例 パート1に録音データがあり、パート2が録音待機状態のときにパート1を押した場合
パート2録音待機を解除すればパート1を録音待機（赤点滅）にできます。

1つのパートが録音待機の場合、他のパートにデータが無いときは、そのスイッチを押しても変化しません。しかし、他のパートにデータがあるときは、そのスイッチを押すと再生と消音を切り替えることができます。

5. ［START/STOP］スイッチを押します。

2小節のカウント後に録音が始まり、録音するパートのスイッチが点滅から点灯にかわります。

また、以下の方法によりカウント無しで、すぐに録音を開始することができます。

・鍵盤を弾く
・ペダルを踏む
・音色を切りかえる
・4で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信（☞p.31）する。

録音中は［START/STOP］スイッチが拍子に合わせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色に点滅します。

MeMO 録音中に録音可能な領域が1%以下になると［RECORD］スイッチが点滅をはじめます。録音可能な領域がいっぱいになった時点で録音は自動的に止まります。

録音中に900小節を超えると［RECORD］スイッチが点滅をはじめます。998小節を超えた時点で録音は自動的に止まります。

MeMO メトロノームを鳴らしながら（☞p.13）、テンポに合わせて録音することができます。

6. 録音を終えるときは、［START/STOP］スイッチを押します。

録音終了後に録音したデータを本機のメモリーへ保存している間は、［RECORD］スイッチが点滅します。保存が終わると、自動的に最初の小節に戻ります。

録音を途中で中断するときは

録音中に［PAUSE］スイッチを押す（スイッチが点灯）と、録音を中断し、その位置で一時停止します。

録音を再開するときは、最初に［RECORD］スイッチを押してから録音するパートを選び赤の点滅にして、［PAUSE］スイッチを押して再開します。［PAUSE］スイッチを押す以外に、操作5.のカウント無しで、すぐに録音を開始する方法でも再開することもできます。

MeMO 一時停止後に録音を再開する場合、つなぎ目がきれいに録音されないことがあります。うまくつないで録音するときは、29ページ「録音した演奏の後半を録音しなおす」ご覧ください。

演奏データに音色も記録するときは

録音が始まる前の2小節のカウント中に音色セレクターを回すことで、演奏データに音色情報を記録できます。また、録音中でも音色を切りかえながら録音すると、音色の切りかえもデータとして記録され、再生するときに音色が切りかわります。

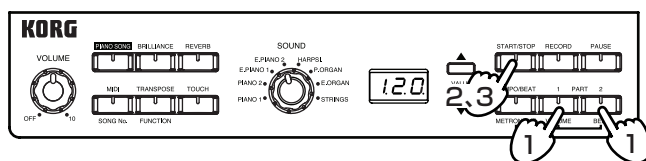
演奏データの拍子について

録音途中で拍子を変えるときは、一時停止して拍子を変えたい小節に移動し、拍子を変更して録音しなおしてください。
録音した演奏データは、録音時の拍子で再生されます。ただし、どちらかのパートがすでに録音済みの場合、もう一方のパートの拍子は録音済みのパートの拍子になり、変更することができません。

演奏データのテンポについて

通常、録音した演奏データにはテンポは記録されません。再生時にテンポを調整してください。ただし、録音中にテンポを変更すると、その位置でテンポが記録され、再生時にはテンポをかえた位置で、録音時のテンポに自動的に切りかわり再生されます。

録音した演奏を聴く

■ 録音した演奏を再生するときは

1. ［PART1］、および［PART2］スイッチの点灯で、パートの録音状態を確認してください。
録音されているときは、緑の点灯になります。録音されていないパートは点灯しません。
録音されているパートは一度押すと緑の点滅になり、そのパートを再生しないようにできます。

2. ［START/STOP］スイッチを押すと、再生が始まります。
再生時は、［START/STOP］スイッチが拍子に合わせて点滅します。1拍目は赤色、その他の拍は緑色です。

再生時は、現在音色セレクターで選択中の音色になりますが、音色を切りかえることもできます。

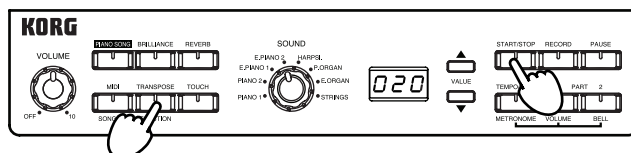
MeMO 音色が記録されている場合は、自動的にその音色で演奏されますが、再生中に音色セレクターで音色を切りかえることもできます。

MeMO 音色を切りかえながら録音した演奏を再生して停止した場合、現在音色セレクターで選択中の音色に戻らず、切りかわったままの音色になります。その場合は、音色セレクターを回して音色を選び直してください。

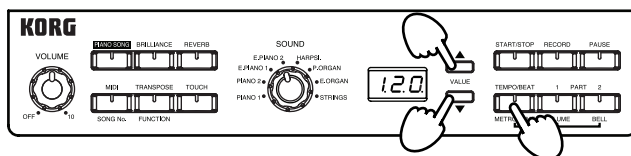
3. 再生を終えるときは、［START/STOP］スイッチを押します。
再生が終わり、自動的に最初の小節に戻ります。
再生中に［PAUSE］スイッチを押す（スイッチが点灯）と、再生を一時停止することができます。
再生を再開するときは、［PAUSE］スイッチを押します。

録音したデータをすべて再生し終えると、自動的に停止して、［START/STOP］スイッチが消灯します。このとき、自動的に最初の小節に戻ります。

■ 演奏を繰り返して再生するときは

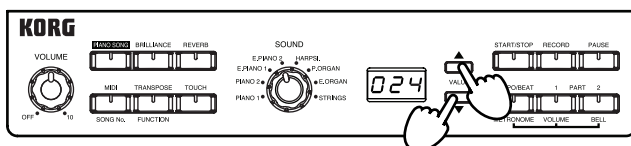
録音した曲全体を、繰り返して再生させることができます。

○ **再生中に［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押します。**
［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチが点滅し、再生を繰り返します。

［PAUSE］スイッチを押すと一時停止し、繰り返し再生が解除され、［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチが消灯し演奏が止まります。
また、［START/STOP］スイッチを押すと、繰り返し再生が解除され［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチが消灯し、演奏が止まり先頭の小節に戻ります。

■ 再生している演奏のテンポを変える

○ **マルチ・ディスプレイにテンポが表示されてないときは、[METRONOME] スイッチを押してテンポを表示した後 [▲]、[▼] スイッチで、再生している演奏のテンポを変えることができます（☞p.13）。**
マルチ・ディスプレイには、現在再生中のテンポが表示されます。

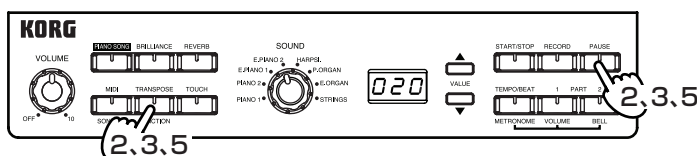
メトロノームの音を出さずにテンポを変えるときは、[METRONOME] スイッチを長押し（1秒以上）して、[▲]、[▼] スイッチで設定してください。

録音中にテンポを変更した演奏では、テンポをかえた位置で自動的に、録音時のテンポに切りかわり再生されます。

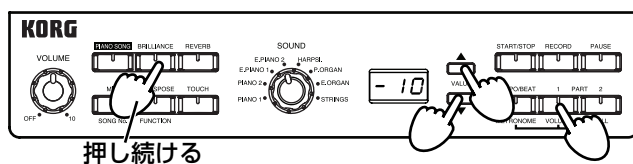
■ 小節移動

○ **再生中または停止、一時停止のときなどに、マルチ・ディスプレイに小節位置が表示されている場合は、[▲]、[▼] スイッチを押して小節間の移動ができます。**
このときに、[▲]、[▼] スイッチを同時に押すと先頭の小節（001）に移動できます。

 停止中に、移動した小節から再生するときは、[PAUSE] スイッチを押してください。

■ 任意の位置を指定してリピート再生するときは（ABリピート機能）

再生の開始位置と終了位置を指定しリピート練習をすることができます。

1. **「録音した演奏を再生するときは」の手順で再生を始めます。**
2. **再生中に、繰り返し再生を開始する位置になったとき、[TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら、[PAUSE] スイッチを押して、開始位置を指定します。**
   [PAUSE] スイッチが点滅になります。
3. **そのまま再生を続け、繰り返し再生を終了する位置になったとき、もう一度 [TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら、[PAUSE] スイッチを押して、終了位置を指定します。**
   [PAUSE] スイッチが点灯にかわります。
4. **自動的に2.で設定した開始位置に戻り、指定した開始位置と終了位置の区間を、繰り返し再生します。**
5. **指定区間の再生を解除するときは、[TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら、[PAUSE] スイッチを押します。**

MeMO [PAUSE] スイッチで解除後その位置から演奏したり、[▲]、[▼] スイッチで小節移動をして解除することもできます。また [START/STOP] スイッチを押して解除することもできますが、その場合は演奏の先頭に戻ります。

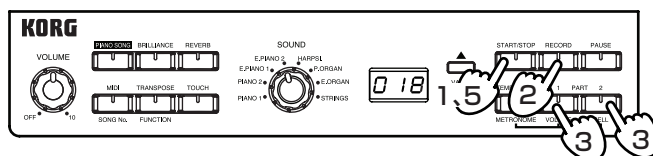
■ 2つのパートの音量バランスを変えるときは

○ パート1とパート2を同時に再生しているときに、[BRILLIANCE] スイッチを押しながら、[PART1] スイッチを押すと、マルチ・ディスプレイに音量バランス(工場出荷時は00)が表示されます。

そのまま [BRILLIANCE] スイッチを押しながら [▲] を押すとパート2の音が小さく(表示00〜12)なります。また、そのまま [BRILLIANCE] スイッチを押しながら [▼] を押すとパート1の音が小さく(表示00〜−12)なります。

もとに戻すときは、[BRILLIANCE] スイッチを押しながら、[PART1] スイッチを押し、そのまま [BRILLIANCE] スイッチを押したまま [▲] と [▼] スイッチを同時に押してください。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。操作方法は、18ページ「設定を記憶する」を参照してください。

録音した演奏の後半を録音しなおす

録音した演奏の任意の位置から後を新たに録音しなおすことができます。

1. [START/STOP] スイッチを押し、再生をはじめます。

2. 録音しなおす数小節前で [RECORD] スイッチを押し、録音待機状態にします。
このとき、[RECORD] スイッチが点灯します。

3. 録音しなおす位置になるまでの間に録音しなおすパートのスイッチを何度か押して、赤の点滅にします。

4. 録音しなおす位置になったら、以下の操作を行い録音を開始します。
・鍵盤を弾く
・ペダルを踏む
・音色を切りかえる
・4で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信(☞p.31)する。

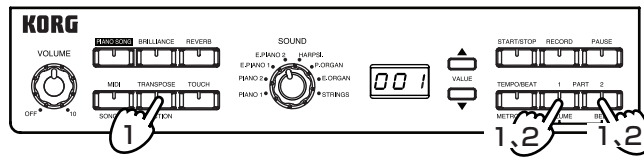
録音が開始されると、録音しなおすパートのスイッチが赤の点滅から点灯に変わります。

5. 録音を終えるときは、[START/STOP] スイッチを押します。
録音したデータを本機のメモリーへ保存している間は、[RECORD] スイッチが点滅します。保存が終わると、自動的に最初の小節に戻ります。

MeMO 録音中に [PAUSE] スイッチを押す(スイッチが点灯)と、録音を終了しその位置で一時停止します。

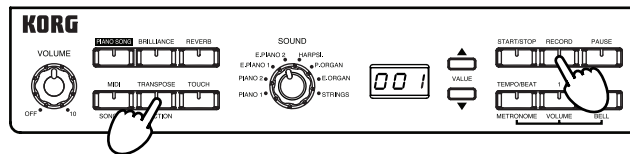
MeMO 音色を録音したパートの後半を録音しなおす場合、鍵盤で弾く音をその音色に合わせてから録音開始して下さい。後半の録音する音色をかえたいときは録音しなおす位置で、音色を変えて録音を開始してください。

演奏データを消去する

■ 演奏データを消去するときは

1. レコーダーが停止しているときに、[TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら、データを消したいパートのスイッチを押します。
［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチが点滅、パートのスイッチが赤と緑の交互に点滅し、演奏データ消去の待機状態になります。

演奏データ消去の待機状態を解除するときは、ここで［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押します。

2. 操作 1.で押したパートのスイッチを再び押します。
消去中はスイッチが早く点滅します。点滅が終わると演奏データは消去されます。

■ 録音可能なデータ残量を知りたいときは

○ **レコーダーが停止しているときに、[TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら [START/STOP] スイッチを押します。**
押している間、マルチ・ディスプレイに録音可能なデータ残量が%表示されます。
残量が 100パーセントのときは、録音できる音数が約 14000、または録音できる小節が 998小節の状態です。

残しておきたい演奏データは、市販のデータファイラーを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします。（☞p.33）

MIDI（ミディ）とは？

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。
本機を使うことによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー･ペダルなどの効果を、一緒にコントロールできます。
また、他のMIDIキーボードやシーケンサー（自動演奏装置）から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。
複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。その他には、本機のレコーダーのデータを保管するときに、MIDIを使って行います。
ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、わかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

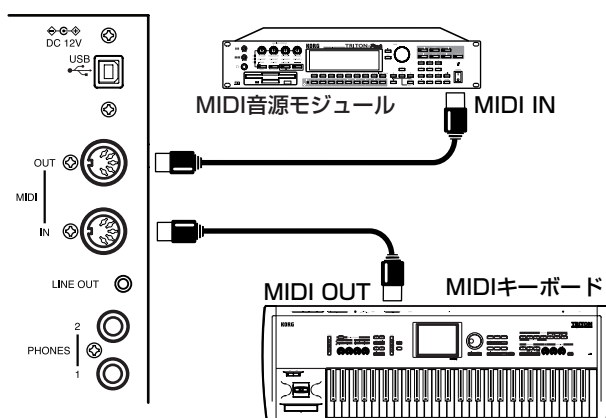
MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、市販のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は２種類あります。

MIDI IN端子

MIDI情報を受信します。
外部MIDI機器（MIDIキーボードやシーケンサーなど）で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

MIDI OUT端子

MIDI情報を送信します。
本機を使ったときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。

MIDIチャンネル

接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

電源をオンにした直後は、自動的にパート1がチャンネル1に、パート２がチャンネル２に設定されます。

○ **パート１のチャンネルを設定するときは、［MIDI/SONG No.］スイッチを押しながら、［▲］、［▼］スイッチを押します。**
このとき、マルチ･ディスプレイに設定したMIDIチャンネル（C01～C16）が表示されます。

パート１のMIDIチャンネルを設定すると、パート2は自動的に設定され、パート1のMIDIチャンネルに＋1したものになります。ただし、パート1でMIDIチャンネルを16に設定したときは、パート2のMIDIチャンネルは1になります。

マルチティンバー音源として使う

本機の電源を入れたときは、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パート･マルチティンバー音源として動作します。

1. **本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。**
2. **接続したシーケンサーなどからのMIDIデータを受信します。**
接続するシーケンサーなどの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、該当するMIDIチャンネルのプログラムチェンジがイネーブルになっているときに限ります。また、プログラムチェンジやコントロールチェンジのキャンセルはMIDIチャンネル１～16それぞれ独自に設定できます。

電源を入れたときは、マルチティンバー音源動作になっています。確認するには［MIDI/SONG No.］スイッチを押すと［PAUSE］スイッチが点灯します。

マルチ･ディスプレイに“16P”と表示されているときはマルチティンバー音源として動作(オン)します。

マルチティンバー音源を解除（オフ）するときは、［MIDI/SONG No.］スイッチを押しながら、［PAUSE］スイッチを押して（スイッチ消灯）マルチ･ディスプレイに“1P”と表示させます。
［MIDI/SONG No.］スイッチを押しながら［PAUSE］スイッチを押すたびにオン、オフを繰り返します（☞p.42「スイッチ、鍵盤機能一覧」）。

 外部のMIDIデータで本機を鳴らす場合、音色セレクターで音色をかえることはできません。

ローカルオン/オフの設定

本機が取り付けられている、アコースティック・ピアノの鍵盤を弾いたときに、内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合は、本機をローカルオフに設定します。

通常はローカルオンに設定し、鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されます。

○ **[MIDI/SONG No.]スイッチを押しながら[METRONOME]スイッチを押します(☞p.42「スイッチ、鍵盤機能一覧」)。**
押すたびにオン、オフが切り替わります。

ローカルオン	[METRONOME]のスイッチ点灯
ローカルオフ	[METRONOME]のスイッチ消灯

プログラムチェンジ

接続したMIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えたり、接続したMIDI機器から、本機のプログラム番号を切り替えます。

プログラムチェンジの送信

接続した外部MIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えます。

○ **音色スイッチで音色を選ぶと、表のように00～07のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。**

プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、次の表のように、本機のマルチティンバーの音色が切り替わります。

本機は、00～07のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器より08以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

シングル	PC#	音色
	00	PIANO1
	01	PIANO2
	02	E.PIANO1
	03	E.PIANO2
	04	HARPSI.
	05	P.ORGAN
	06	E.ORGAN
	07	STRINGS

プログラムチェンジ・キャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

○ **[MIDI/SONG No.]スイッチを押しながら、[PART1]スイッチを押します(☞p.42「スイッチ、鍵盤機能一覧」)。**
押すたびにキャンセル、イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[PART1]のスイッチ赤点灯
キャンセル	[PART1]のスイッチ消灯

プログラムチェンジ・キャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてプログラムチェンジ・キャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、電源をオフにしない限り、1chのプログラムチェンジ・キャンセルの設定は記憶されています。

コントロールチェンジ・キャンセル

本機のダンパーペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信して、本機をコントロールできます。
これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

○ **[MIDI/SONG No.]スイッチを押しながら、[PART2]スイッチを押します(☞p.42「スイッチ、鍵盤機能一覧」参照)。**
押すたびにキャンセル、イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[PART2]のスイッチ赤点灯
キャンセル	[PART2]のスイッチ消灯

コントロールチェンジ・キャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてコントロールチェンジ・キャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、電源をオフにしない限り、1chのコントロールチェンジ・キャンセルの設定は記憶されています。

レコーダーのデータを保存するには（データダンプ）

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー（記憶装置）に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

 データファイラーの取扱説明書をよく読んで、データを消してしまわないように十分注意してください。

データの送信中及び受信中には鍵盤に触れないで下さい。

演奏データをデータファイラーに保存します（バックアップ）

1. MIDIケーブルで、本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INを接続します。

2. データファイラーを操作して、本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。

3. 本機の［MIDI/SONG No.］スイッチを押しながら、［RECORD］スイッチを押します（☞p.42「スイッチ、鍵盤機能一覧」）。

［MIDI/SONG No.］スイッチが点滅し、パートの［PART1］と［PART2］が赤く点灯して、データダンプ送信待ちの状態になります。

操作を中止するときは、本機の［MIDI/SONG No.］スイッチを押します。

4. ［START/STOP］スイッチを押します。

データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。送信している間は、［START/STOP］スイッチが緑で点滅します。

送信が終了すると、［START/STOP］スイッチが消灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

 データダンプ送信待ちの状態や、データファイラーに演奏データを送信している間は、本機から音が出ません。データの送信が終りデータファイラーにデータが記録されると、通常の演奏できる状態に戻ります。

演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します（リストア）

1. MIDIケーブルで、本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTを接続します。

2. 本機の［MIDI/SONG No.］スイッチを押しながら、［RECORD］スイッチを押します（☞p.42「スイッチ、鍵盤機能一覧」参照）。

［MIDI/SONG No.］スイッチが点滅し、パートの［PART1］と［PART2］が赤く点灯して、データダンプ受信待ちの状態になります。

操作を中止するときは、本機の［MIDI/SONG No.］スイッチを押します。

3. データファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいた本機の演奏データを送信します。データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください。

本機が演奏データを受信します。受信中には［RECORD］スイッチが点滅します。

演奏データの受信が終了すると、［RECORD］スイッチが消灯し、データダンプ受信待ちの前の状態に戻ります。

 データファイラーから演奏データを受信している間は、本機から音が出ません。データの受信が終り、演奏データが本機のレコーダー内に元どおりに正しく収まると、通常の演奏できる状態に戻ります。

USB

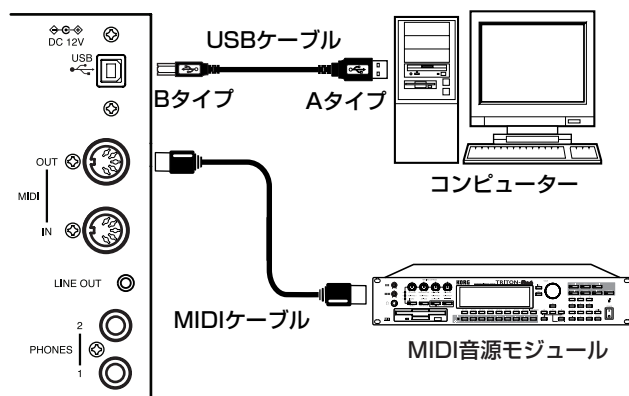
USBとは?

USBはUniversal Serial Busの略で、コンピューターと周辺機器でデータをやりとりするためのインターフェイスです。本機はUSB端子を搭載しています。直接コンピューターと接続することにより、大切な演奏データをコンピューターに保存したり、コンピューターから読み込んだりできます。また、シーケンサー・ソフトウェアを使い本機を演奏させたり、本機の演奏をコンピューターに録音することもできます。

 演奏データは本機独自のフォーマットです。オーディオ・データとしてコンピューターなど本機以外で再生や編集することはできません。再生するためには本機にリストアをしてください。

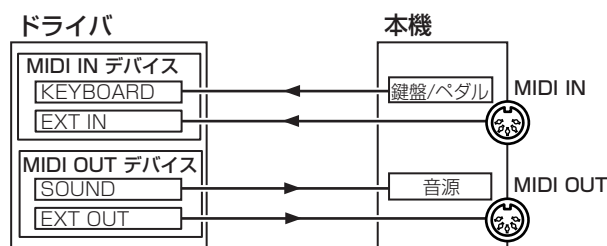
 本機に外部ハードディスク、CD-R/RWドライブなどのUSB周辺機器を接続することはできません。

USBの接続

USBケーブルで本機とコンピューターを接続します。市販のUSBケーブルを用意してください。
用意するケーブルは片方がAタイプ、もう片方がBタイプのオスのソケットになっているものです。USB接続の場合は、コンピューターの電源を入れたままで接続できます。
本機のUSB端子にUSBコネクターを接続します。コンピューターのUSB端子にもう片方のUSBコネクターを接続します。

MeMO 本機はUSB MIDIインターフェイスとしても使用できます。MIDI OUT端子にMIDI音源などを接続すると、そのままコンピューターとMIDI音源とのやり取りも行えます。

 USB接続時には、MIDI OUT端子からはUSBからのデータを送信します。本機が送信する鍵盤などのMIDIメッセージは、MIDI OUT端子からは出力されません。

本機とドライバのポートについて

本機のUSB MIDIは、ドライバ(コンピューター)側から見ると2-IN/2-OUTになります。

■ MIDI INデバイス

KEYBOARD

本機の各コントローラーからのMIDIメッセージが入力されます。
コンピューターのアプリケーションを本機で操作したい場合に、アプリケーションのリモートコントロールのMIDI入力設定でこのポートを選択してください。

EXT IN

本機のMIDI IN端子に入力されたMIDIメッセージをこのポートに出力します。外部シーケンサーのMIDIメッセージをコンピューターのアプリケーションに送信したいときなど、本機をUSB MIDIインターフェイスとして使用する場合に、アプリケーションのMIDI入力設定でこのポートを選択してください。

■ MIDI OUTデバイス

SOUND

ソフトウェアで出力したMIDIメッセージを本機の音源に送信します。

EXT OUT

ソフトウェアが出力したMIDIメッセージをそのまま本機のMIDI OUT端子へ送信します。
コンピューターのアプリケーションのMIDIメッセージを外部機器に送信したいなど、本機をUSB MIDIインターフェイスとして使用する場合に、アプリケーションのMIDI入力設定でこのポートを選択してください。

USB接続時のデータダンプ

USBケーブルで接続したときは、MIDIケーブルを接続しなくてもバックアップ、リストアを行うことができます。操作方法は、33ページ「レコーダーのデータを保存するには(データ・ダンプ)」の操作2.以降を行ってください。

本機のMIDI端子について

■ USB接続されていないとき

MIDI IN端子
通常MIDIメッセージを本機の音源に送信します。

MIDI OUT端子
本機の鍵盤などのコントローラーのMIDIメッセージを送信します。

■ USB接続されているとき

MIDI IN端子
受信した内容をそのままEXT INへ送ります。

MIDI OUT端子
EXT OUTから出力した内容をそのまま送信します。本機の各コントローラーからのメッセージは送信しません。

USB-MIDIドライバのインストールと設定

Windows XPをお使いの場合

OSにWindows XPを使用したコンピューターには、付属のKORG USB-MIDI Driver for Windows XPを使うことができます。
本機を初めてコンピューターのUSBポートに接続すると、自動的に Windows標準のUSB MIDIドライバがインストールされます。KORG USB-MIDI Driver for Windows XPを使用するときは、以下の手順でドライバをインストールしなおしてください。

本製品のソフトウェアの使用許諾契約が別途に付属されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこの使用許諾契約をお読みください。ソフトウェアをインストールすると、この契約に同意したことになります。

付属のCD-ROMは、一般オーディオ用プレイヤーでは絶対に再生しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。またヘッドホンをご使用になる場合、大音量によって耳に障害を被ることがあります。

KORG USB-MIDI Driver for Windows XPはWindows XP専用です。Windows95/98/Me/2000では使用できません。

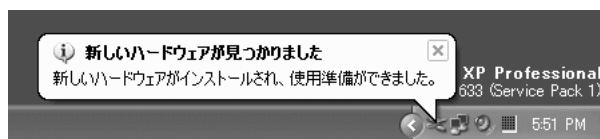
■ KORG USB-MIDI Driver for Windows XPのインストール

制限付きアカウントでログオンしている場合は、Windows XPへのドライバをインストールおよびアンインストールできません。コンピューターの管理者グループに属するユーザーでログオンするか、管理者に相談してください。

デジタル署名によるドライバのインストールの抑制を行なわないようにしておいてください（☞p.37「デジタル署名の認証によるドライバのインストールの抑制を回避するには」）。

ドライバのインストールはＵＳＢのポートごとに必要です。KORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールしたときとは異なる別のUSBポートに本機を接続して使用する場合は、同様の手順で新たにKORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールしなおしてください。

1. 本機の電源を入れて、本機とPCをUSBケーブルで接続します。
Windowsが本機の接続を認識します。

そして、標準のドライバが自動的にインストールされます。

Windows XPへのドライバのインストールおよびアンインストールを行なうためにはAdministratorの管理者権限が必要です。詳しくはシステム管理者に相談してください。

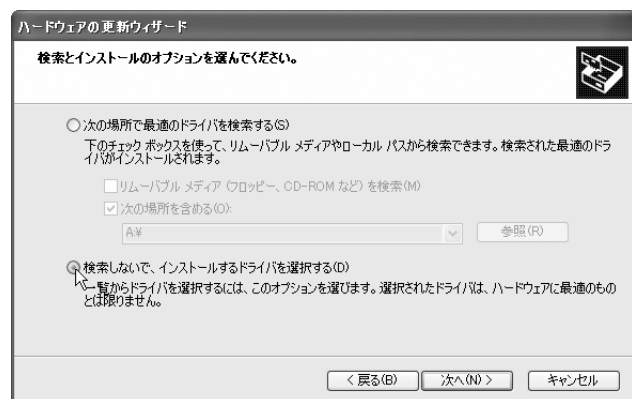
2. タスクバーの［スタート］ボタン、［コントロール パネル］の順にクリックし、コントロールパネルを表示させます。

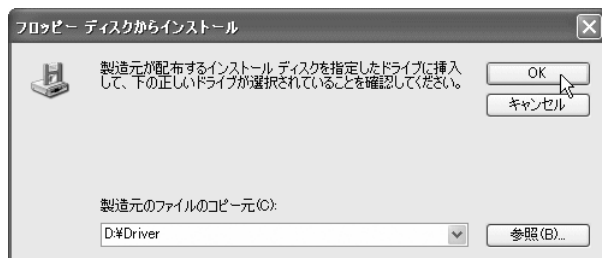
3. コントロールパネルの中の［サウンドとオーディオデバイス］を起動し、［ハードウェア］タブをクリックします。

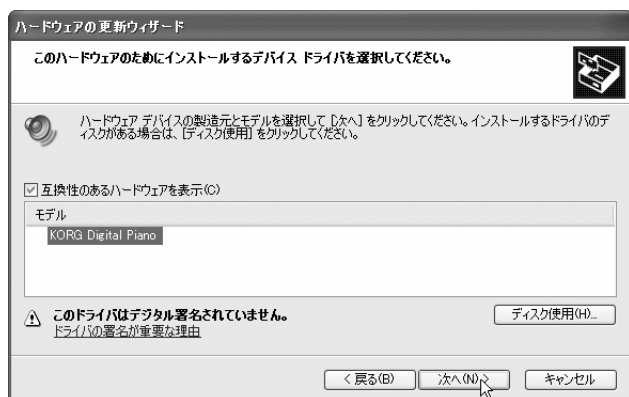
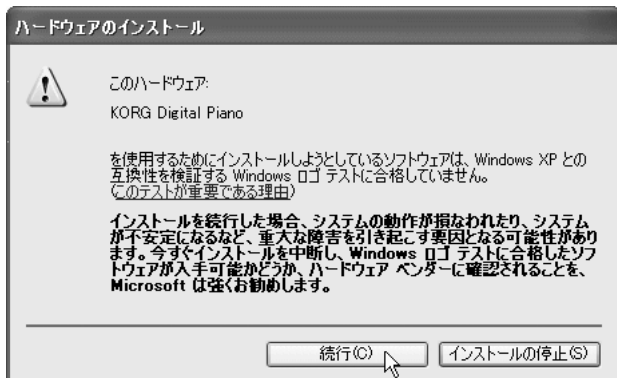
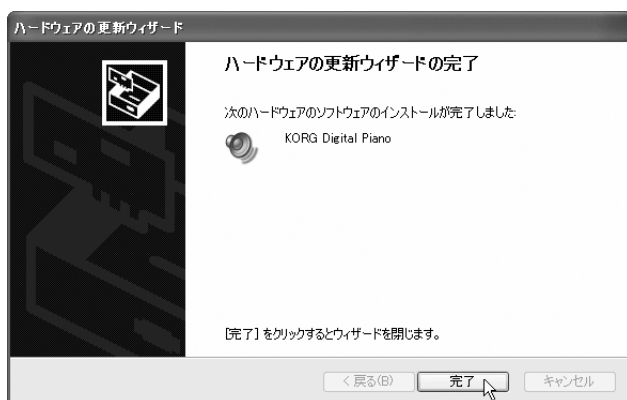
4. デバイスのリストから［USB Audio Device］を選択し、リスト下の「デバイスのプロパティ」の項目の“場所”にKORG DIGITAL PIANOが表示されていることを確認し、［プロパティ...］ボタンをクリックします。

5. 「USB Audio Deviceのプロパティ」ダイアログが表示されるので、[ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新...] ボタンをクリックします。

6. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。
「インストール方法を選んでください。」では "一覧または特定の場所からインストールする" をクリックし、[次へ >] をクリックします。

7. "検索とインストールのオプションの選択" では、必ず「検索しないで、インストールするドライバを選択する」をクリックし、[次へ >] をクリックします。

8. "このハードウェアのためにインストールするデバイス ドライバを選んでください。" と表示されるので、[ディスク使用] ボタンをクリックします。

9. フォルダ名を求めてくるので、本機付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、KORG USB-MIDI Driver for Windows XPの入っているフォルダ "D:¥Driver" を入力し [OK] ボタンをクリックします。

ただし、これはCD-ROMドライブがDドライブの場合であり、お使いのコンピューターの環境に合わせて、CD-ROMドライブがEドライブの場合には上記フォルダ名の "D:" を "E:" のように変更して入力してください。

10. モデルにKORG Digital Pianoが表示されていることを確認し [次へ >] をクリックするとドライバのインストールが始まります。

11. 途中デジタル署名認証の警告ダイアログが表示される場合がありますが、[続行] をクリックして先に進めます。

12. インストール完了のダイアログが表示されるので [完了] をクリックします。Windowsの再起動を求められた場合には、[はい] を選んで再起動させてください。

■ KORG USB-MIDI Driver for Windows XPのアンインストール

1. タスクバーの [スタート] ボタンをクリックして、[コントロール パネル] をクリックして表示させます。

2. コントロール パネルの中の [サウンドとオーディオデバイス] を起動し、[ハードウェア] タブをクリックします。

3. デバイスのリストからKORG Digital Pianoを選択し、[プロパティ...] ボタンをクリックします。

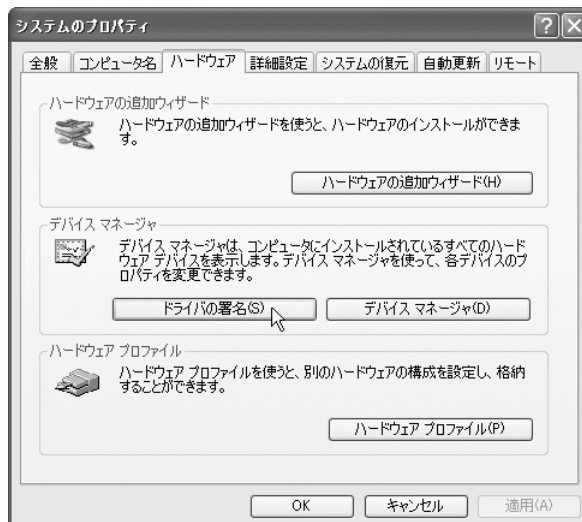
4. 「KORG Digital Pianoのプロパティ」ダイアログが表示されるので、[ドライバ] タブをクリックし、[削除] ボタンをクリックします。

5. 確認のダイアログが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

■ デジタル署名の認証によるドライバのインストールの抑制を回避するには

お使いのコンピューターが、デジタル署名の無いドライバをインストールできないように設定されている場合は、KORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールすることができません。以下の方法でドライバをインストールできるように設定を変更してください。

1. タスクバーの [スタート] ボタン、[コントロール パネル] の順にクリックしてコントロール パネルを表示させます。

2. コントロールパネルの中の [システム] を起動し、[ハードウェア] タブをクリックします。そして、[ドライバの署名] ボタンをクリックします。

3. “どのように処理しますか?” で [ブロック] が選択されていると、ドライバをインストールすることができません。[無視] または [警告] を選び、[OK] をクリックします。
必要があれば、ドライバをインストール後、この設定を元に戻してください。

Mac OS Xをお使いの場合

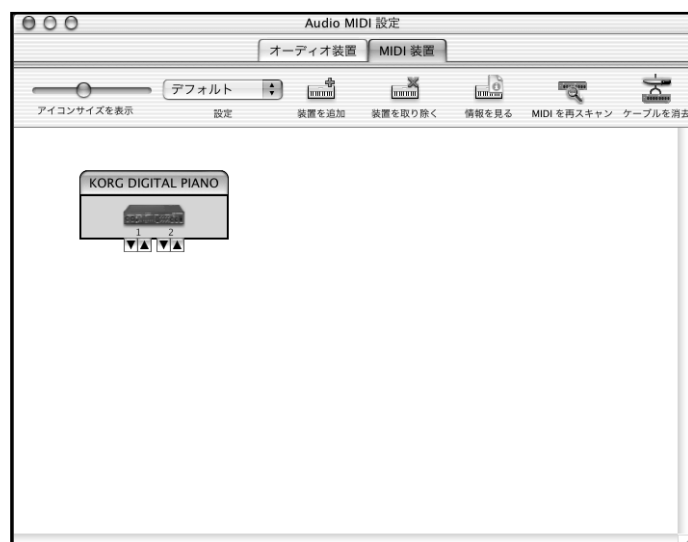
お使いのコンピューターがMac OS Xの場合は、Mac OS X標準のMIDIドライバを使用します。

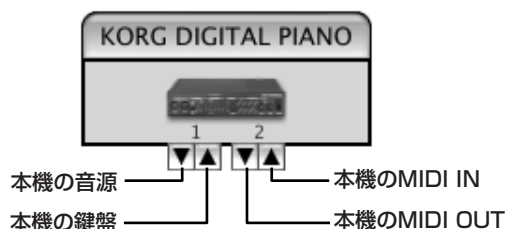
 Mac OS X 10.2以降で有効です。

1. 本機とコンピューターをUSBケーブルで接続します。

2. 本機の電源を入れます。

3. アプリケーション・フォルダ→ユーティリティ・フォルダの中の “Audio MIDI設定” をダブルクリックして開きます。

4. “MIDI装置” タブをクリックして、本機が表示されていることを確認します。

■ Mac OS X標準のMIDIドライバのポートについて

ドライバ側(コンピューター側)のポート1、ポート2は、本機のKEYBOARD(鍵盤)、SOUND(音源)、MIDI IN/OUTに対応しています(☞p.34「本機とドライバのポートについて」)。

■ アプリケーション側の入力ポートの設定

本機でDAWなどのアプリケーションをコントロールする場合、本機の鍵盤からMIDIメッセージを受信するには、アプリケーション側の入力ポートをポート1(Port1)に設定します。

本機での呼称名		アプリケーションでの表示
入力	KEYBOARD	(MIDI入力設定に表示される)Port1
	EXT IN	(MIDI入力設定に表示される)Port2
出力	SOUND	(MIDI出力設定に表示される)Port1
	EXT OUT	(MIDI出力設定に表示される)Port2

故障とお思いになる前に

電源が入らない

● ACアダプターのDCプラグを本体のDC12Vに差し込んでいますか?

● ACアダプターの電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか?

● 電源がオンになっていますか?(☞p.7)

● それでも電源が入らない場合は、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜いて、修理を依頼してください。

音が出ない

● 本機の[VOLUME]ツマミが左側に回しきって("OFF"の手前)いませんか?(☞p.7)

● 選んでいるパートが再生されるように設定していますか?(☞p.20、25)

● 選んでいるパートに、演奏データは録音されていますか?(☞p.25)

● 選んでいるパートが消音になっていませんか?(☞p.20)

● ローカルオンになっていることを確認してください。(☞p.32)

● マルチ・ディスプレイにエラー表示(E01)がでていませんか?
ピアノ本体とユニットをつないでるケーブルに異常が発生しました。取付認定技術者または、購入販売店に修理を依頼してください。
エラー表示は[MIDI]スイッチを押すと消えます。

マルチ・ディスプレイに"E02"と表示された

● ユニット取付時のデータが壊れていたので、標準データ書き込みました。
このまま演奏することはできますが、音量、音程、ペダルの効き具合などが狂っている可能性があります。取付認定技術者または、購入販売店に修理および、再調整を依頼してください。
エラー表示(E02)は[MIDI]スイッチを押すと消えます。

音が途切れてしまう

● 最大同時発音数を超えています。
前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的に鳴らす仕組みになっているため、最大同時発音数を超えると音が切れてしまいます。
ピアノ2の音色は、最大同時発音数が64音ですが、そのほかの音色は2つのデータを使用しているため、最大同時発音数が32音になります。
ダンパーペダルを使用するときや、録音したデータを再生するときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

● 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

特定の鍵盤で音が出ない、大きい、小さい
ペダルの効きが弱すぎる、強すぎる
アコースティック・ピアノと音程が違う

● 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお薦めします。

録音できない

● レコーダーの空き領域は十分にありますか?(☞p.30)

途中から録音しなおすと、録音した部分だけテンポや拍子が違う

● 録音をしなおすときと、その前の録音時のテンポや拍子と同じ設定にしましたか?
本機は、最後に録音したときのテンポや拍子を記録するので、録音し直した部分はそのときのテンポや拍子に書き換えられます。(☞p.26)

録音パート1と2で別々のテンポや拍子で再生できない。

● 本機は、パート1と2のテンポは拍子と共通で使用します。また、拍子は最初に録音されたパートの拍子で再生されます。(☞p.26)

● パート1と2で別々のテンポの曲を録音したときは、再生時にテンポの設定を変えてください。(☞p.26)

送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

● MIDIケーブルが正しく接続されていることを確認してください。(☞p.31)

● 受信機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。(☞p.31)

USB-MIDI Driver for Windows XPがインストールできない（Windows XPをお使いの場合）

- USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。（☞p.34）
- CD-ROMがCDドライブに正しく入っているか確認してください。
- CDドライブのレンズが汚れていませんか?
  市販のレンズ・クリーナーでクリーニングしてください。
- ネットワークのCDドライブからインストールしていませんか?
  ネットワークで接続されているCDドライブからはインストールできません。
- USBが使用可能になっているか確認してください。
  Windows XPの場合、[コントロール パネル]の[システム]、[ハードウェア]タブ、[デバイス マネージャ]でユニバーサル シリアル バスコントロール、USB ルートハブを確認してください。
- 不明なデバイスとして認識されていませんか?
  Windows XPの場合、[コントロール パネル]の[システム]、[ハードウェア]タブ、[デバイス マネージャ]で確認します。正しく認識されない場合は、本機が「その他のデバイス」の中に表示されたり、「不明なデバイス」と表示されます。USBケーブルを再接続し、新たに「不明なデバイス」と表示された場合は、本機が不明なデバイスとして認識されています。表示された「不明なデバイス」を削除し、ドライバをインストールし直してください。（☞p.35）

ソフトウェアが反応しない

- USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。（☞p.34）
- ドライバをインストールしましたか?
- 接続したコンピューターに本機が認識されているか確認してください。

  Windows XPの場合は、コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」、ハードウェアで確認してください。

  Mac OS Xの場合は、Macintosh HD→アプリケーション・フォルダー→ユーティリティ・フォルダー→ “Audio MIDI設定” の “MIDI装置” タブ・ページで本機が認識されているかを確認してください。

ご使用になるコンピューターのハードウェア環境によっては、USB接続で本機を認識できないことがあります。

- 本機のアサイン設定とUSB MIDIポートの設定を確認してください。（☞p.35）
- 接続している機器やソフトウェアが、本機の機能に対応していない場合があります。接続している機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照し、確認してください。

消音しない利用例

本機はアコースティック・ピアノの音を消して、ヘッドホン演奏や練習する目的の機器ですが、アコースティック・ピアノを消音することなく、本機の一部の機能を利用することがことができます。

- メトロノームやピアノ・ソングを鳴らしながら、それに合わせてアコースティック・ピアノを使った練習。

鍵盤を弾いた音をスピーカーから出したくないときは、ローカルオフに設定してください。（☞p.32「ローカルオン/オフの設定」）

- アコースティック・ピアノと本機の音色を重ねて演奏する。
- 本機のMIDI情報は消音してなくても送信するので、アコースティック・ピアノの演奏に合わせて、MIDI情報を送信し、他のMIDI機器と連係させた演奏をする。

などの利用法があります。

スピーカー付きモデルの場合、本機の音色はスピーカーから出すことができますが、スピーカー無しモデルの場合でも、ラインアウト端子に市販のアンプ付きスピーカーなどを接続して同様の使い方ができます。

仕様

項目	内容
音色	8音色: ピアノ1、ピアノ2、エレクトリック・ピアノ1、エレクトリック・ピアノ2、ハープシコード、パイプ・オルガン、エレクトリック・オルガン、ストリングス
音源	ステレオ・サンプリング音源
最大同時発音数	64音
効果	リバーブ（3段階）、ブリリアンス（3段階）
レコーダー	2パート、最大14,000ノート テンポ/メトロノーム、録音、再生/停止、一時停止、パート1、パート2
キーボード・モード	シングル
音律	3種類 （平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター）
タッチ・コントロール	3段階（軽め、標準、重め）
コントロール	[VOLUME]ツマミ、音色セレクタ、[PIANO SONG]、[BRILLIANCE]、[REVERB]、[MIDI/SONG No.]、[TRANSPOSE/FUNCTION]、[TOUCH]、[▲]、[▼]、[START/STOP]、[RECORD]、[PAUSE]、[METRONOME]、[PART1]、[PART2]スイッチ
ペダル	ハーフ・ペダル対応：ダンパー、ソフト
接続端子	ヘッドホン×2、LINE OUT（ステレオ）、MIDI（IN、OUT）、USB
電源	DC12V（付属ACアダプター）
外形寸法（W×D×H）	268×200×58（mm） （音源ユニットのみ）
重量	1.6Kg（音源ユニットのみ）
付属品	ACアダプター、ヘッドホン、CD-ROM、外付けスピーカー（スピーカー付きモデルのみ）

※仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

・Sound Processed with INFINITY™

ピアノ・ソング・リスト

名曲集1

No.	曲名	作者
1	プレリュード(平均律第1巻 第1番より)	J.S.バッハ
2	インベンション 第1番	J.S.バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J.S.バッハ
4	ソナタK.545 第1楽章	W.A.モーツァルト
5	トルコ行進曲(ソナタ K.331より)	W.A.モーツァルト
6	エリーゼのために	L.v.ベートーヴェン
7	「悲愴」第2楽章	L.v.ベートーヴェン
8	乙女の祈り	T.バダジェフスカ
9	アラベスク Op.100-2(25練習曲より)	F.ブルクミュラー
10	スティリアの女 Op.100-14(25練習曲より)	F.ブルクミュラー
11	貴婦人の乗馬 Op.100-25(25練習曲より)	F.ブルクミュラー
12	春の歌 Op.62-6(無言歌集第6巻より)	F.メンデルスゾーン
13	トロイメライ Op.15-7	R.シューマン
14	荒野のばら	G.ランゲ
15	紡ぎ歌	A.エルメンライヒ
16	人形の夢と目覚め	T.オースティン
17	亜麻色の髪の乙女	C.ドビュッシー
18	アラベスク 第1番	C.ドビュッシー
19	プレリュード (ベルガマスク組曲より)	C.ドビュッシー
20	ゴリィウォーグのケークウォーク	C.ドビュッシー
21	月の光	C.ドビュッシー
22	ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」Op.64-1	F.ショパン
23	ワルツ 第7番 ホ短調 Op.64-2	F.ショパン
24	ノクターン 第2番 Op.9-2	F.ショパン
25	マズルカ第5番 Op.7-1	F.ショパン
26	幻想即興曲 Op.66	F.ショパン
27	別れの曲 Op.10-3	F.ショパン
28	黒鍵のエチュード	F.ショパン
29	プロムナード(展覧会の絵より)	M.P.ムソルグスキー
30	ジムノペディ第1番	E.サティ
31	ジュ・トゥ・ヴ	E.サティ
32	愛の挨拶	E.エルガー

バイエル(全訳バイエルピアノ教則本)

No.		備考
1	thema, var.1～12	パート1に先生のパート パート2に生徒のパート(右手)
2	thema, var.1～8	パート1に生徒のパート(左手) パート2に先生のパート
3...106		生徒のパート(両手)

名曲集2

No.	曲名	作者
1	楽しき農夫	R.シューマン
2	すみれ	R.ストリーボッグ
3	メヌエット　ト長調	J.S.バッハ
4	ガボット	J.S.バッハ
5	ソナチネ作品 op.20-1 第1楽章	FR. クーラウ
6	ソナチネ作品 op.55-1 第1楽章	FR. クーラウ
7	ソナチネ作品 op.36-1 第1楽章	M.クレメンティ
8	ピアノソナタ第20番　ト長調　第1楽章	L.v.ベートーヴェン
9	月光(第1楽章)	L.v.ベートーヴェン
10	ト調のメヌエット	L.v.ベートーヴェン
11	アンダンテ	J.ハイドン
12	楽興の時	F.P.シューベルト
13	狩人の歌　(op.19-No.3)	F.メンデルスゾーン

ブルクミュラー(25の練習曲)

No.	曲名	作者
1	すなおな心	J.F.ブルクミュラー
2	アラベスク	J.F.ブルクミュラー
3	パストラル(牧歌)	J.F.ブルクミュラー
4	小さなつどい	J.F.ブルクミュラー
5	無邪気	J.F.ブルクミュラー
6	進歩	J.F.ブルクミュラー
7	清らかな小川	J.F.ブルクミュラー
8	優しく美しく	J.F.ブルクミュラー
9	狩(かり)	J.F.ブルクミュラー
10	やさしい花	J.F.ブルクミュラー
11	せきれい	J.F.ブルクミュラー
12	別れ	J.F.ブルクミュラー
13	コンソレーション(なぐさめ)	J.F.ブルクミュラー
14	シュタイヤー舞曲(アルプス地方の踊り)	J.F.ブルクミュラー
15	バラード	J.F.ブルクミュラー
16	ちょっとした悲しみ	J.F.ブルクミュラー
17	おしゃべりさん	J.F.ブルクミュラー
18	気がかり	J.F.ブルクミュラー
19	アヴェ・マリア	J.F.ブルクミュラー
20	タランテラ	J.F.ブルクミュラー
21	天使の合唱	J.F.ブルクミュラー
22	バルカロール(舟歌)	J.F.ブルクミュラー
23	再会	J.F.ブルクミュラー
24	つばめ	J.F.ブルクミュラー
25	乗馬	J.F.ブルクミュラー

スイッチ、鍵盤機能一覧

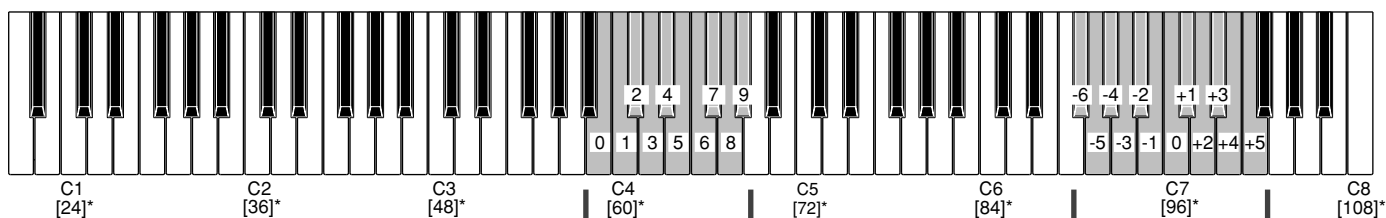
	1 PART / VOLUME	PART 2 / BELL	START/STOP	RECORD	PAUSE	TEMPO/BEAT / METRONOME
MIDI / SONG No. を押しながら	MIDIの設定(☞p.31)					
	プログラムチェンジキャンセル	コントロールチェンジキャンセル		データダンプ	マルチティンバーオン/オフ	ローカルオン/オフ
TRANSPOSE / FUNCTION を押しながら	演奏データの消去(☞p.30)		メモリー残量(☞p.30)	設定の記憶(☞p.18)	ABリピート(☞p.21)	
	パート1を消去	パート2を消去				

押したまま　押したら離す

	TOUCH	TOUCH ＋ 1 PART / VOLUME	TOUCH ＋ PART 2 / BELL	TEMPO/BEAT / METRONOME	TEMPO/BEAT / METRONOME（押したら離す）	TEMPO/BEAT / METRONOME ＋ 1 PART / VOLUME	TEMPO/BEAT / METRONOME ＋ PART 2 / BELL
▲ VALUE ▼ で設定	鍵盤タッチの設定(☞p.15)	ピッチの設定(☞p.16)	音律の設定(☞p.17)	メトロノームの設定(☞p.13)			
				拍子	テンポ	音量	アクセント音
	軽め/標準/重め	427.5〜452.5Hz	00:平均律 01:ヴェルクマイスター 02:キルンベルガー	2/3/4/6拍子	40〜240	1〜13	無し/通常の音/ベルの音

押したまま　押したら離す

	BRILLIANCE	BRILLIANCE ＋ 1 PART / VOLUME	PIANO SONG ＋ 1 PART / VOLUME	MIDI / SONG No.	REVERB
▲ VALUE ▼ で設定	ブリリアンスの設定(☞p.11)	パートの設定		MIDIチャンネル(☞p.31)	リバーブの設定(☞p.12)
		音量バランス(☞p.29)	ミュート音量(☞p.20)		
	・ひかえめ ・標準 ・明るめ	−12〜00〜12 [PIANO SONG]スイッチ消灯時	0〜12 [PIANO SONG]スイッチ点灯時	1〜16	弱/中/強

＊[　]内はMIDIノートNo.

[METRONOME]スイッチ＋0(B3)〜9(G♯4)
テンポの数値入力(☞p.13)

テンポの数値入力例----テンポを86にするには
[METRONOME]スイッチを押しながら
鍵盤B3、G4、F4(0、8、6)を順番に押します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチ＋
−6(F♯6)〜＋5(F7)半音
トランスポーズ(☞p.15)

[デジタルピアノ]
KS-1

MIDIインプリメンテーション・チャート

2005.3.14

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時 設定可能	1 1–16	1 1–16	
モード:	電源ON時 メッセージ 代用	 × **************	3 ×	
ノート ナンバー:	音域	15–113 **************	0–127 21–108	
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	○9n, V=1–127 ×	○9n, V=1–127 ×	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー:		×	×	
コントロール チェンジ:	7 11 64 66 67 91 120 121	○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ボリューム ＊1，＊4 エクスプレッション ＊1，＊4 ダンパー・ペダル ＊1，＊3 ソステヌート・ペダル ＊1，＊4 ソフト・ペダル ＊1，＊3 リバーブ・センド ＊1，＊4 オールサウンド・オフ リセット・オールコントロール
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	0–7 **************	0–7 0–7	＊2
エクスクルーシブ:		○	○	デバイス・インクワイアリ シーケンス・データ・ダンプ
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム:	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	× ○ ○ ×	○ ○123–127 ○ ×	

備考:
＊1 コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する
＊2 プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する
＊3 ハーフダンパー出力値(0、38、74、127)
＊4 シーケンス・データのみ送信する

モード1: オムニオン、ポリ　モード2: オムニオン、モノ　○: あり
モード3: オムニオフ、ポリ　モード4: オムニオフ、モノ　×: なし

ピアノ音源ユニット　KS-1　取扱説明書

Ⓙ

1704 EH ***Printed in Japan***